

令和 7 年度

事業報告書

社会福祉法人 神奈川県総合リハビリテーション事業団

目 次

I	はじめに	1
1	評議員会・理事会等	2
(1)	評議員会	2
(2)	理事会	2
(3)	評議員選任・解任委員会	3
(4)	役員等名簿	4
2	神奈川県との協定について	5
(1)	神奈川県総合リハビリテーションセンターの管理に関する基本協定	5
3	委員会・協議会	5
(1)	個人情報保護委員会	5
(2)	厚木看護専門学校運営協議会	5
4	運営組織	6
5	役職員	7
II	事業の実施状況	8
1	福祉事業	8
(1)	福祉施設利用状況	12
(2)	地域福祉支援事業の状況	12
(3)	入退所審査会の開催状況	12
(4)	在所児(者)の状況	13
(5)	退所児(者)の状況	14
(6)	施設別苦情受付件数	15
(7)	利用者満足度調査	15
(8)	各福祉施設における特徴的な利用者支援	16
(9)	各福祉施設におけるリハビリテーション・支援の状況	17
(10)	給食業務の状況	20
2	病院事業	21
(1)	病院利用状況	21
(2)	入院及び外来患者の状況	22
(3)	科別手術の状況	23
(4)	紹介・逆紹介率実績	23
(5)	セカンドオピニオン実績	23
(6)	診療科別平均在院日数	23
(7)	病棟科別利用率・平均在院日数	23
(8)	退院患者の状況	24
(9)	地域別入院患者の状況	25
(10)	薬剤業務の状況	26
(11)	検査業務の状況	27
(12)	放射線業務の状況	28
(13)	給食業務の状況	29
(14)	理学療法の状況	30

(15) 作業療法の状況	30
(16) 言語訓練の状況	30
(17) 1患者当りの訓練実施件数の実績	30
(18) 心理検査等の状況	31
(19) 職能訓練の状況	31
(20) 体育指導の状況	32
(21) リハビリテーション工学の状況	32
(22) ブレース・クリニックの実施状況（含む脳卒中装具外来）	33
(23) 総合相談室の状況	33
(24) 相談の状況	33
(25) 地域連携室の状況	34
3 リハビリテーション研究事業	35
(1) リハビリテーションに関する調査、研究・開発	35
(2) 情報提供・情報発信	35
(3) 研究発表会	36
(4) かながわりハビリロボットクリニック（KRRC）の取組	37
(5) 障害者スポーツの支援	38
(6) 市民向け公開講座	40
(7) 専門職向けセミナーの開催	40
4 地域リハビリテーション支援センター事業	41
(1) リハビリテーション専門研修（指定管理事業）	41
(2) 地域リハビリテーション支援関連活動（指定管理事業）	41
(3) 神奈川県リハビリテーション支援センター事業（県委託事業）	43
(4) 高次脳機能障害支援普及事業（県委託事業）	45
5 厚木看護専門学校事業	51
(1) 在籍者の状況	51
(2) 卒業生の就職等の状況	52
(3) 応募者の状況	52
6 地域の保健・医療・福祉への支援事業	53
7 職員確保対策事業	55
(1) 職員充足状況	55
(2) 令和7年度常勤医師の採用数	55
(3) 学資金等の貸付事業の状況	55
(4) こども園保育状況	55
8 職員福利厚生事業	56
(1) 職員宿舍入居状況	56
(2) 健康診断実施状況	56
(3) 貸付事業の状況	56
9 経営計画に基づく取組状況	57
(1) 福祉施設の取組状況	57
(2) 病院の取組状況	58
■令和7年度事業計画の数値目標と実績	59
事業報告の附属明細書	60

I はじめに

本格的な人口減少社会の到来により、少子高齢化や地域社会の脆弱化等の社会構造の変化に対応していくために「地域共生社会」の実現が求められており、心身機能の回復だけでなく、生活の自立や社会参加を支え、住み慣れた地域で暮らし続けることを可能にするリハビリテーションの重要性は増しています。

そうした中、県では、近年のリハビリテーション医療や障害者医療、患者・利用者の地域移行など、神奈川県総合リハビリテーションセンター（以下、「リハセンター」という。）を取り巻く環境の変化を踏まえ、患者や当事者の目線であらためて県立施設として果たすべき役割や目指す姿を再整理し、その上で最適な運営手法を検討するため、医療と福祉に関する外部有識者等を委員とした「あり方検討会」を設置し、令和6年10月から令和8年2月まで9回にわたって、議論が重ねられてきました。また、この事に伴い第二期指定管理期間の終期が令和8年3月31日から令和10年3月31日まで2年間延長されることとなりました。

事業団においては、令和7年度は、賃上げへの対応や物価高騰等の影響により、厳しい経営状況となりましたが、引き続き、指定管理者としての事業団の使命である「利用者の社会復帰」に向けて、多職種連携による質の高い医療・福祉サービスの継続に努めるとともに、今後は、あり方検討会での意見や提言を踏まえ、今後のリハビリテーション医療を取り巻く環境の変化に柔軟に対応していく組織体制を構築するとともに、当事者目線に立ったサービス提供のために、より戦略的かつ安定的な運営に努め、神奈川県におけるリハビリテーション医療の質の向上、地域生活への貢献など、県立施設としての役割を果たしてまいります。

1 評議員会・理事会等

(1) 評議員会

令和7年度は、評議員会を1回開催し、下記について審議・報告し、議決結果は次のとおりである。

開催年月日	議 題		議決結果	開催場所
第1回 令和7年 6月27日	第1号議案	社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団理事の選任について	可決	三共横浜 ビル 現地開催 及び WEB会議 の併用
	第2号議案	社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団監事の選任について	可決	
	報告事項	令和6年度社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団の事業報告及び決算報告書について	了承	

(2) 理事会

令和7年度は、理事会を5回開催し、下記について審議・報告し、議決結果は次のとおりである。

開催年月日	議 題		議決結果	開催場所
第1回 令和7年 6月9日	第1号議案	令和6年度社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団事業報告及び決算報告書の承認について	可決	リハセンター 会議室 現地開催 及び WEB会議 の併用
	第2号議案	社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団新理事及び新監事候補者の承認について	可決	
	第3号議案	社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団定時評議員会の終結後の新評議員候補者の承認について	可決	
	第4号議案	定時評議員会招集の決議について	可決	
	報告事項	令和6年10月から令和7年3月までの理事長並びに専務理事の職務執行状況報告について	了承	
第2回 令和7年 6月27日	第1号議案	理事長の選定について	可決	リハセンター 会議室 現地開催 及び WEB会議 の併用
	第2号議案	専務理事の選定について	可決	
	第3号議案	評議員選任・解任委員会委員の選任について	可決	
第3回 令和7年 9月29日	第1号議案	社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団新評議員候補者の承認について	可決	リハセンター 会議室 現地開催 及び WEB会議 の併用
	第2号議案	社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団就業規程の一部を改正する規程の制定について	可決	
第4回 令和7年 12月8日	報告事項1	令和7年4月から令和7年9月までの理事長及び専務理事の職務執行状況報告について	了承	リハセンター 会議室 現地開催 及び WEB会議 の併用
	報告事項2	神奈川県の監査の実施状況について	了承	

開催年月日	議 題		議決結果	開催場所
第 5 回 令和 8 年 3 月 25 日	第 1 号議案	令和 7 年度社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団予算の補正について	可決	リハセンター 会 議 室 現 地 開 催 及 び WEB 会 議 の 併 用
	第 2 号議案	令和 8 年度社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団事業計画及び予算について	可決	
	第 3 号議案	社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団職員給与規程の一部を改正する規程の制定について	可決	
	第 4 号議案	社会福祉法人神奈川県総合リハビリテーション事業団財務規程の一部を改正する規程の制定について	可決	
	第 5 号議案	職員被服更新積立金の廃止について	可決	
	第 6 号議案	職員被服積立金について	可決	
	第 7 号議案	役員賠償責任保険の締結について	可決	
	報告事項	神奈川県による監査の実施結果について	了承	

(3) 評議員選任・解任委員会

令和 7 年度は、評議員選任・解任委員会を 2 回開催し、評議員 8 名が選任された。

開催年月日	議 題		議決結果	開催場所
第 1 回 令和 7 年 6 月 16 日	審議事項	定時評議員会終結後の評議員の選任について	可決	WEB 会議
第 2 回 令和 7 年 10 月 2 日	審議事項	評議員の選任について	可決	WEB 会議

(4) 役員等名簿

(令和8年3月31日現在)

	氏 名	現任期間
評 議 員	小野 真由美	R7.6.27からR11.6 定時評議員会開催日まで
〃	川島 志保	R7.6.27からR11.6 定時評議員会開催日まで
〃	菅原 憲一	R7.6.27からR11.6 定時評議員会開催日まで
〃	内藤 則義	R7.6.27からR11.6 定時評議員会開催日まで
〃	中村 泰巳	R7.6.27からR11.6 定時評議員会開催日まで
〃	宮川 弘一	R7.10.2 からR11.6 定時評議員会開催日まで
〃	山下 巖	R7.6.27からR11.6 定時評議員会開催日まで

役職	氏 名	現任期間
理 事 長	霜尾 克彦	R7.6.27からR9.6 定時評議員会開催日まで
専務理事	竹村 勉	R7.6.27からR9.6 定時評議員会開催日まで
理 事	笹生 正人	R7.6.27からR9.6 定時評議員会開催日まで
〃	杉山 肇	R7.6.27からR9.6 定時評議員会開催日まで
〃	深井 康信	R7.6.27からR9.6 定時評議員会開催日まで
〃	村井 政夫	R7.6.27からR9.6 定時評議員会開催日まで

役職	氏 名	現任期間
監 事	堀越 由紀子	R7.6.27からR9.6 定時評議員会開催日まで
〃	中元 文徳	R7.6.27からR9.6 定時評議員会開催日まで

会計監査人	奥津 勉	(奥津公認会計士共同事務所)
-------	------	----------------

※評議員、理事及び監事は五十音順である。

2 神奈川県との協定について

(1) 神奈川県総合リハビリテーションセンターの管理に関する基本協定

当事業団は、平成28年4月1日から令和8年3月31日まで、神奈川県総合リハビリテーションセンター（以下「リハセンター」という。）の指定管理者として指定されたが、より時代に即した医療・福祉のあり方について医療と福祉に関する外部有識者等の意見を聴取し、検討の参考とするため、神奈川県では、令和6年8月に神奈川県総合リハビリテーションセンターのあり方検討会を設置し、これに伴い第二期指定管理期間の終期が、令和8年3月31日から令和10年3月31日まで2年間延長された。

指定管理業務の運営にあたっては、「神奈川県総合リハビリテーションセンター条例」第4条の規定により、リハセンターの指定管理業務について神奈川県と当事業団で基本協定を締結し、必要な事項（協定の目的、管理物件、協定期間、業務範囲、事業計画等の策定等）を定め業務を運営している。

また、基本協定に定めるものの他、年度ごとに定める必要がある事項（指定管理料の支払い方法等）については、年度協定を締結している。

3 委員会・協議会

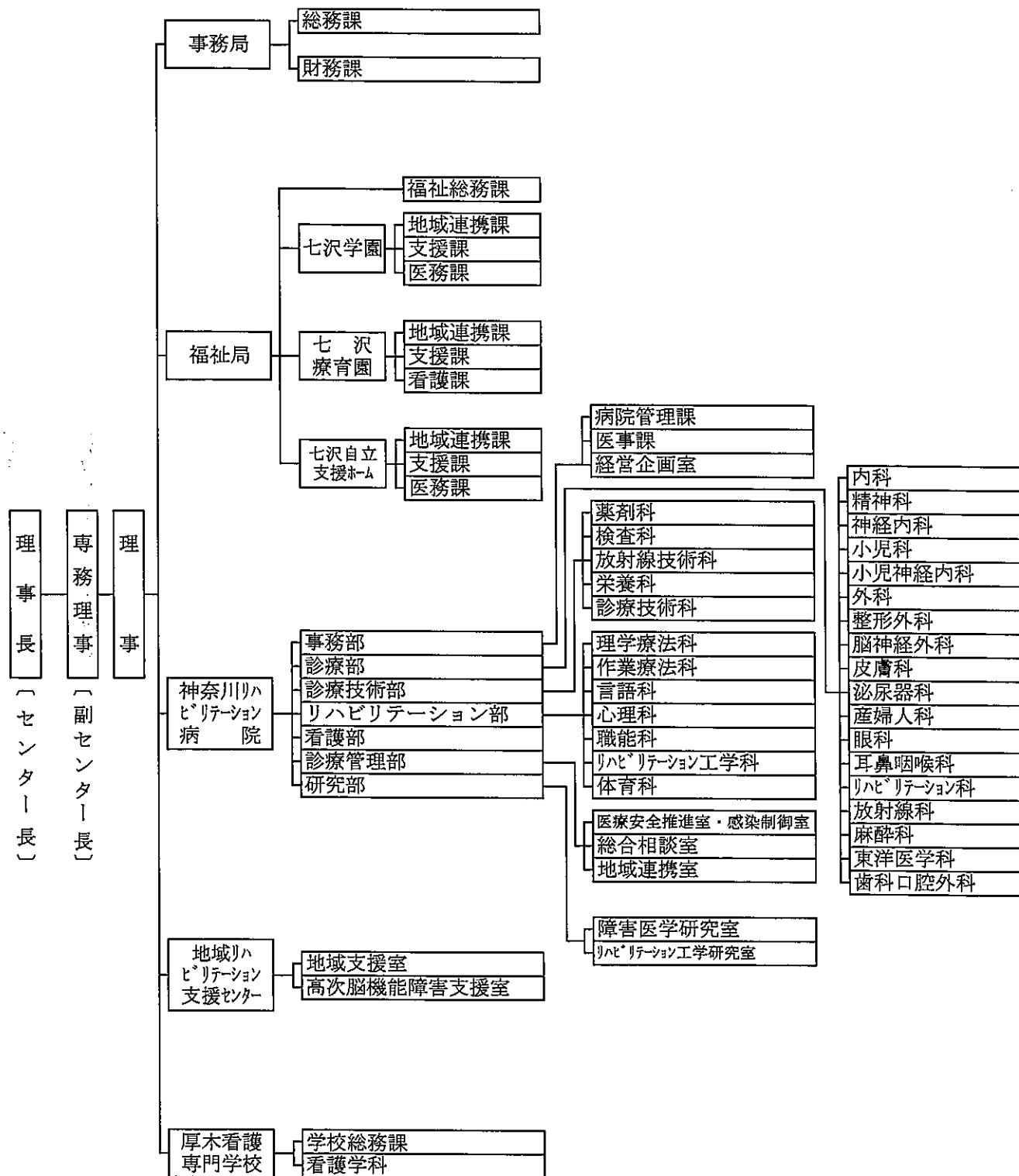
(1) 個人情報保護委員会

区 分	開 催 年 月 日	議 題 等
令和7年度	令和8年2月20日	1. 報告事項 (1) 令和7年分個人情報開示請求状況について (令和7年1月1日から令和7年12月31日現在)

(2) 厚木看護専門学校運営協議会

区 分	開 催 年 月 日	報 告 事 項
第28回	令和8年3月12日	1. 厚木看護専門学校の現状について 2. 自己点検・自己評価、学生確保対策等について 3. その他

4 運営組織（令和8年3月31日現在）



5 役 職 員

令和8年3月31日の職員数は次のとおりである。

(単位 人)

施設名	職 種	医 師	看護職員	理 学 療 法 士	作 業 療 法 士	そ の 他 医療職員	指 導 員	そ の 他 職 員	計
役 員		2	0	0	0	0	0	2	4
事 務 局		0	0	0	0	2	0	12	14
七 沢 学 園		0	0	0	0	1	67	3	71
七 沢 療 育 園		1	19	0	0	0	19	3	42
七沢自立支援ホーム		1	8	0	0	1	25	1	36
神 奈 川 リ ハ 病 院		29	207	61	44	54	35	62	492
研 究 部		0	0	0	0	0	0	2	2
地域リハ支援センター		0	0	2	1	0	0	1	4
厚 木 看 護 専 門 学 校		0	1	0	0	0	0	24	25
計		33	235	63	45	58	146	110	690

注1 その他医療職員とは、薬剤師、臨床検査技師、聴能検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士、針灸療法士、義肢装具士及び視能訓練士をいう。

2 指導員とは、児童指導員、生活支援員、視覚障害者支援員、職業指導員、体育指導員、ソーシャルワーカー及び心理判定員をいう。

3 その他職員とは、理事、事務職員、工学技術員、診療情報管理士、専任教員、研究員、看護補助員、機能訓練作業員、クランク、保育士及びをいう。

Ⅱ 事業の実施状況

1 福祉事業

七沢学園（福祉型障害児入所施設・障害者支援施設）

七沢学園は、知的障害児を対象にした福祉型障害児入所施設と、成人を対象とした障害者支援施設との複合施設である。

福祉型障害児入所施設では、虐待やその傾向にあるケースと自閉症など広汎性発達障害や ADHD（注意欠如多動性障害）等を伴うケースの利用が依然として際立っている。令和 7 年度の利用者数は、入所 8 人退所 7 人、一日平均入所者数は 25.3 人、一日平均入所率は 84.4% であった。

また、虐待等の措置入所のほか、1 ヶ月～6 ヶ月の施設入所を通して、ADL の評価や改善、集団生活での行動観察や評価、家族のレスパイト等の課題を絞り込んで利用する「集中療育」を実施しており、令和 7 年度の利用者実人数は 4 人であった。

障害者支援施設の施設入所支援の利用状況は、入所が 7 人、退所が 4 人、一日平均入所者数は 23.1 人で、一日平均入所率は 76.9% であった。日中活動支援の生活介護においては、強度行動障害者や医療ケアを必要とする利用者の健康維持を基本に、機能や発達レベルに応じ機能維持訓練や軽作業、歩行訓練を行っており、一日平均利用者数は 17.3 人、一日平均利用率は 90.9% であった。

自立訓練（生活訓練）においては、各々の利用者に合った個別作業を主とした支援を行っており、一日平均利用者数は 8.5 人、一日平均利用率は 50.1% であった。

地域福祉支援事業では、電話や来園による相談支援を延べ 434 人、知的障害児通所機関巡回指導を延べ 287 人実施した。

短期入所事業では、家族の休養だけでなく、冠婚葬祭や疾病・出産の緊急対応、不登校・引きこもり対応などの社会的理由、また社会性拡大を目的とした施設体験などの支援も行うこととしている。

その他、児童福祉法第 33 条に基づく緊急一時保護による入所の受入れは実人数 45 人、延べ人数 195 人であった。

地域の知的障害者やグループホーム等へ地域移行した退所者及び短期入所のうち生活訓練の受給者証を所持する者を対象として日中活動支援（通所訓練）を提供しており、実人数 1 人、延べ人数 157 人であった。

七沢療育園（医療型障害児入所施設・障害者支援施設）

七沢療育園では重度の知的障害と肢体不自由を併せ持つ重症心身障害児者に医療や看護の提供と療育及び日常生活の支援を行うとともに、在宅生活者に短期入所事業を提供した。

令和 7 年度の入所事業は、入所が 5 人、退所が 4 人、一日平均入所者数は 38.0 人、一日平均入所率は 95.1% であった。

令和 7 年度、長期利用者が 1 人死亡。年度途中で 1 人受け入れた。

医療型障害児入所は 0 人、有期限の療養介護は 1 人で延べ 46 人を受け入れた。

地域福祉支援事業の内、短期入所事業では、在宅の重症心身障害児者の家族等の疾病や休養目的で実人数 236 人に対し延べ 1,192 人の受け入れを行った。

「在宅重症心身障害児（者）療育訪問指導事業」の利用者は実人数 1 人に対して 8 回行った。

また、神奈川リハビリテーション病院（以下「神奈川リハ病院」という。）の小児科医師が中心となり他診療科医師の協力を得ながら看護師と共に日常的に医療ケアが必要である超・準超重症心身障害児者の受入れを行った。令和 7 年度の超・準超重症心身障害児者の受入れ実人数は長期 14 人、短期 33 人で延べ 5,447 人であった。

七沢自立支援ホーム（障害者支援施設）

七沢自立支援ホームは、肢体不自由者及び中途視覚障害者の支援施設として一体的に運営している。

肢体不自由者については、神奈川リハ病院と連携して、身体機能の回復・改善、職業能力・社会生活力の向上に必要な支援を行い、社会参加、家庭復帰が円滑に行えるように努めた。令和7年度の施設入所支援の利用者数は、入所が20人、退所が21人、一日平均入所者数20.0人で、一日平均入所率は50.1%、また、日中活動支援の自立訓練（機能訓練）は一日平均利用者数が19.8人、一日平均利用率は47.1%であった。

一方、中途視覚障害者に対しては、社会生活力の向上を目指して、歩行能力の回復、点字の読み書き習得、情報機器の活用、身辺管理・家事動作技術の習得、ロービジョン評価・訓練、視覚障害者スポーツなど地域での在宅生活に向けての支援を行った。令和7年度の施設入所支援の利用者数は、入所が7人、退所が8人、一日平均入所者数4.5人で、一日平均入所率は45.1%、また日中活動支援の自立訓練（機能訓練）は一日平均利用者数が5.7人、一日平均利用率は31.5%であった。

七沢自立支援ホーム全体としては、施設入所支援の一日平均入所者数は24.5人、一日平均入所率は49.1%、日中支援活動（自立訓練）の一日平均利用者数は25.5人、一日平均利用率は42.6%であった。

地域福祉支援事業では、地域における障害者や退所後の利用者等に通所訓練を実施し、実人数11人、延べ323人で、職場復帰に向けた支援、家庭復帰後の生活の質の向上及び社会生活に向けた支援等を提供した。更に視覚障害者に対しては訪問訓練を実施し、令和7年度の訪問訓練実績は3件であった。

また、短期入所事業では、在宅の肢体不自由者、視覚障害者を中心に家族等の疾病、休養などの理由で短期的に利用する者等で実人数65人、延べ316人の受け入れを行った。

その他に受託評価事業では、肢体不自由児(者)を対象とし、支援学校（支援学級）在学者の進路指導や施設利用者の生活自立支援に資するため、神奈川リハ病院と連携して、医学・心理・職能・社会生活等の評価を行っており、令和7年度の利用者数は実人数11人、延べ60人であった。また、県内の盲学校等に在籍する視覚障害児(者)を対象に神奈川リハ病院眼科と連携し、視機能・触察能力・日常生活動作・コミュニケーション能力等の評価を行う受託評価事業の利用者数は、実人数3人、延べ15人であった。

補装具製作では、補装具製作所として神奈川県指定を受け、神奈川リハ病院と連携して、施設利用者や外来患者等の義肢・装具など64件の補装具製作及び修理を行った。

苦情解決の実施状況

各福祉施設が提供する福祉サービスに関する、利用者や家族からの苦情については、第三者からなる苦情解決委員を置き、知的障害児者及び身体障害者については月2回、重症心身障害児者については月1回の相談日を設け適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。なお、令和7年度の苦情等の受付件数は苦情、相談、要望及び感謝を合わせて福祉施設全体で40件であった。

社会福祉施設サービス自己評価会議の実施状況

社会福祉施設サービス自己評価会議を設置し、各福祉施設が提供する福祉サービスの質について自己評価を行い、サービスの質の確保・向上に努めているが、令和7年度の実施状況は次のとおりであった。

施設名	実施日	実施結果
七沢学園	令和8年1月31日	『入所者の権利・プライバシー・個人の意思尊重』の項目については「できている」「ほぼできている」を合わせて 約 97% が肯定的に回答しており、前年度同様高い水準を維持している結果となった。 一方、評価が低かった設問は「職員のペースになったり日課の消化となったりしていない」で、「できていないことが多い」と回答した職員が 10.9% 見られた。これは、職員体制や業務状況の影響により、利用者支援が職員主導になりやすい場面が生じていることを示しており、利用者支援の質に影響を及ぼす可能性がある。そのため、引き続き日常的に上席職員や関係部署が支援体制の補完を行っている。 最も評価が低かった項目は、前年度同様、『地域交流室等の空間作りや社会とのつながりの配慮をしている』であった。設問「地域交流室等が地域の交流の場として活用されている」については、「できていないことが多い」「全くできていない」を合わせて 約 44% が否定的に回答しており、地域交流の場としての活用が十分に浸透していない現状がうかがえる。 全体を通して、「できている」「ほぼできている」と回答した割合は 概ね 90% を占めており、今年度も良好な評価結果となった。(回答率 100%)
七沢療育園	令和8年3月27日	令和6年度に排泄ケアの見直しを行い、令和7年度も引き続きおむつ交換の設定を随時見直してきた。支援課・看護課両スタッフとも流れに慣れ、又、適切なおむつの選択が出来るようになり利用者の陰部周りの皮膚疾患も少なくなってきた。おむつ交換に2人体制で入ることも増えてきた。排泄や入浴時の同性介護に関するポイントは出来ている・ほぼ出来ているが 77.4% と昨年より微減となったがスタッフの男女比、特に男性スタッフの不足が影響していると考えられる。 感染症対策がやや緩くなり、面会の方法などを工夫して家族の行事参加や面会の対応なども変更してきた。その為か、家族との連携に関しては日常の様子を家族に伝えているとの項目で出来ている・ほぼ出来ているが 93.5% と高い数字が出た。但し家族からの要望として面会条件のさらなる緩和の希望があり感染症対策を行いながらも面会条件の緩和に努めていく必要がある。

施設名	実施日	実施結果
七沢自立支援ホーム	令和8年1月19日	「努力を要する」「できていない」が20%以上の項目が昨年19項目から今年度は22項目（全65項目）となった。そのうち17項目は昨年と同様の項目であり、アフターケア、地域との連携、周辺環境の整備等の課題が継続している。 昨年度のまとめでコメント欄への記載が少なく評価の分析が難しかったため、今年度は評価理由をコメント欄に記載するよう強調し、コメント数は昨年の33から今年度116と増加した。各コメントを共有し、新しい気づきや今後の支援の参考にして、次年度の自己評価の改善につなげていく。 生活環境の整備で雑草や植木の管理について地域住民、見学、面会の方々に良い印象は持たれないのではないか。景観や安全を心配するコメントが複数みられた。特に夏場の雑草等は、支援員の除草作業では限界があり、事業団全体の課題である。 地域との連携、交流について例年出来ていないとの回答が多かったが、今年度は施設行事に地域の事業所に参加していただくことができた。また、地域連携推進会議も開始し、少しずつではあるが地域との連携交流を進めている。今後は防災訓練への相互参加等も検討していく。 先駆的な取り組みに学んで事業所運営については、「出来ている」の回答が58%と低いため、他施設との交換研修などの機会を作り、学びと改善を行っていく努力が必要である。

(1) 福祉施設利用状況

ア 施設入所支援

(単位 人)

区分	施設名	七 児	沢 童	学 成	園 人	七 小	沢 計	七 療	沢 育	七 園	沢 肢	自 体	立 不	支 自	援 由	ホ 視	ー 覚	ム 障	小 害	計	計
定員		30		30		60		40		40		40		10		50					150
前年度末 在 所 者 数		22		20		42		35		21		4		25							102
入 所 者 数		8		7		15		223		20		7		27							265
退 所 者 数		7		4		11		222		21		8		29							262
一 日 平 均 入 所 者 数		25.3		23.1		48.4		38.0		20.0		4.5		24.5							111.0
一 日 平 均 入 所 率 (%)		84.4		76.9		80.7		95.1		50.1		45.1		49.1							74.5
年 度 末 在 所 者 数		23		23		46		36		20		3		23							105
年 間 延 入 所 者 数		9,247		8,422		17,669		13,885		7,313		1,646		8,959							40,513

注1 年度末在所者数には、3月31日退所者は含まない。注2 七沢療育園は空床型のため、短期利用者を含む。

イ 日中活動支援（障害者支援施設）

(単位 人)

区分	施設名 サービス名	七沢学園（成人）			七沢自立支援ホーム			計
		生活介護	自立訓練 （生活訓練）	小 計	肢体不自由 自立訓練 （機能訓練）	視覚障害 自立訓練 （機能訓練）	小 計	
定員		19	17	36	42	18	60	96
日中訓練年間延人数		4,181	2,060	6,241	4,784	1,372	6,156	12,397
一 日 平 均 利 用 者 数		17.3	8.5	25.8	19.8	5.7	25.5	51.3
一 日 平 均 利 用 率 (%)		90.9	50.1	71.6	47.1	31.5	42.6	53.4

注 七沢療育園及び七沢学園（児童）は、児童福祉法による入所であることから日中訓練には該当しない。

(2) 地域福祉支援事業の状況

区分	施設名	七沢学園（児童）		七沢学園（成人）		七沢学園（小計）		七沢療育園		七沢自立支援ホーム		計	
		実 績	延 人	実 績	延 人	実 績	延 人	実 績	延 人	実 績	延 人	実 績	延 人
家族一日利用		16人	42人	0人	0人	(実)16人	42人	0人	0人	0人	0人	16人	42人
家族短期入所		0人	0人	0人	0人	(実)0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
短 期 入 所		(実)199人	423人	(実)208人	437人	(実)407人	860人	(実)236人	1,192人	(実)65人	316人	(実)708人	2,368人
電話・来園による相談支援		104人	104人	258人	330人	(実)362人	434人	0人	0人	0人	0人	362人	434人
知的障害児者通所機関等巡回指導		9人	26人	76人	261人	(実)85人	287人	0人	0人	0人	0人	85人	287人
療育訪問指導事業		0人	0人	0人	0人	(実)0人	0人	8回	8人	0人	0人	8回	8人
重心親子教室		0人	0人	0人	0人	(実)0人	0人	0回	0人	0人	0人	0回	0人
通 所 事 業 （(1)イの内数）		0人	0人	(実)1人	157人	(実)1人	157人	0人	0人	(実)11人	323人	(実)12人	480人
受 託 評 価		0人	0人	0人	0人	(実)0人	0人	0人	0人	(実)14人	75人	(実)14人	75人
一時保護（児童福祉法第33条）		(実)45人	195人	0人	0人	(実)45人	195人	(実)0人	0人	0人	0人	(実)45人	195人

注 数値は年間実施回数及び年間延人数。七沢学園の知的障害児者通所機関巡回指導と療育訪問指導事業は、児童・成人共通。

(3) 入退所審査会の開催状況

区分	施設名	七 沢 学 園 （ 児 童 ）	七 沢 学 園 （ 成 人 ）	七 沢 療 育 園	七 沢 自 立 支 援 ホ ー ム （ 肢 体 不 自 由 ）	（ 視 覚 障 害 ）	計
開催回数（回）		14	8	12	19	8	61
実 数 （ 人 ）		24	13	456	25	12	530

(4) 在所児(者)の状況(令8年3月31日現在)

ア 児童相談所

(単位 人)

施設名 \ 児童相談所	横浜市	川崎市	横須賀市	相模原市	計	中央	小田原	平塚	厚木	鎌倉・三浦	大和綾瀬	計
七沢学園(児童)	在所児数	0	0	0	0	3	2	11	3	0	4	(0) 23
七沢療育園	在所児者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	在所児者数	0	0	0	0	(1) 3	2	11	3	0	4	(1) 23
	構成比(%)	-	-	-	-	13.0	8.7	47.8	13.0	-	17.4	100.0

注 七沢療育園は医療型障害児入所施設分である。

注 () 書きは、3月31日退所者で内書きとする。

イ 市町村

(単位 人)

施設名 市町村	七沢学園 (成人)		七沢療育園	七沢自立支援ホーム (肢体不自由)		七沢自立支援ホーム (視覚障害)		計		
	入 所 者 数	通所者数	入 所 者 数	入 所 者 数	通所者数	入 所 者 数	通所者数	入 所 者 数	通所者数	入所者数 構成比 (%)
横浜市	0	0	0	2	0	1	0	3	0	3.7
川崎市	2	0	0	1	0	0	0	3	0	3.7
横 須 賀 市	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1.2
平 塚 市	6	0	4	0	0	0	1	10	1	12.2
鎌 倉 市	1	0	2	2	0	0	0	5	0	6.1
藤 沢 市	2	0	1	0	0	0	0	3	0	3.7
小 田 原 市	2	0	0	0	0	0	0	2	0	2.4
茅 ヶ 崎 市	0	0	5	0	0	0	0	5	0	6.1
逗 子 市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
相 模 原 市	1	0	3	2	0	0	0	6	0	7.3
三 浦 市	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1.2
秦 野 市	1	0	1	1	0	0	0	3	0	3.7
厚 木 市	1	1	6	2	0	1	4	10	5	12.2
大 和 市	0	0	2	1	0	0	0	3	0	3.7
伊 勢 原 市	2	0	1	1	0	0	0	4	0	4.9
海 老 名 市	0	0	1	0	0	0	1	1	1	1.2
座 間 市	0	0	5	2	0	0	0	7	0	8.5
南 足 柄 市	1	0	1	0	0	0	0	2	0	2.4
綾 瀬 市	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1.2
大 磯 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
二 宮 町	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1.2
葉 山 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
箱 根 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
真 鶴 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
湯 河 原 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
寒 川 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
愛 川 町	2	0	3	2	0	0	0	7	0	8.5
清 川 村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
中 井 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
大 井 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
松 田 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
山 北 町	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1.2
開 成 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-
計	(0) 23	(0) 1	(0) 36	(0) 18	(0) 0	(0) 2	(0) 6	79	7	96.3
県 外	0	0	0	2	0	1	0	3	0	3.7
合 計	(0) 23	(0) 1	(0) 36	(0) 20	(0) 0	(0) 3	(0) 6	82	7	100.0

注 () 書きは、3月31日退所者で内書きとする。

注 七沢療育園は療養介護事業分である。

(5) 退所児(者)の状況

ア 退所先の状況

区 分		七沢学園				七沢療育園		七沢自立支援ホーム				計											
		児童		成人		小計		肢体不自由		視覚障害		小計											
		実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)										
家族同居	就 労 継 続 支 援 B 型	1				1								1									
	通 所 サ ー ビ ス						157		1			1		158									
	高 校 ・ 大 学	1				1								1									
	進 学 先 特別支援学級・特別支援学校	1				1	61							62									
	三療養成機関(あんま・鍼・灸)																						
	職 業 訓 練 校 等																						
	自 営		42.8		25.0		36.4		98.1		52.4		37.5		48.3	90.1							
	職 業 職 場 復 帰 新 規 就 労								2	(1)		(1)	2		2								
	趣 味 ・ サ ー ク ル 活 動 ・ 家 事 等			1		1			1		(5)	3	(5)	10		11							
	保 護 介 助								7														
小 計	3	(0)	1	(0)	4	218	(0)	11	(6)	3	(6)	14	236										
単身生活	就 労 継 続 支 援 B 型																						
	通 所 サ ー ビ ス																						
	高 校 ・ 大 学																						
	進 学 先 特別支援学級・特別支援学校																						
	三療養成機関(あんま・鍼・灸)																						
	職 業 訓 練 校 等								1				1		1	2.3							
	自 営									14.3		37.5		20.7									
	職 業 職 場 復 帰 新 規 就 労																						
	趣 味 ・ サ ー ク ル 活 動 ・ 家 事 等								2		3		5		5								
	保 護 介 助																						
小 計	0	(0)	0	(0)	0	0	(0)	3	(0)	3	(0)	6	6										
グループホーム	就 労 継 続 支 援 B 型	1		2		3								3									
	通 所 サ ー ビ ス	1				1								1									
	高 校 ・ 大 学																						
	進 学 先 特別支援学級・特別支援学校																						
	三療養成機関(あんま・鍼・灸)																						
	職 業 訓 練 校 等		42.9		75.0		54.5		—		19.0		25.0		20.7	4.6							
	自 営																						
	職 業 職 場 復 帰 新 規 就 労	1				1								1									
	趣 味 ・ サ ー ク ル 活 動 ・ 家 事 等			1		1			4		2		6		7								
	保 護 介 助																						
小 計	3	(0)	3	(0)	6	0	(0)	4	(0)	2	(0)	6	12										
計		6	85.7	(0)	4	100.0	(0)	10	90.9	218	98.1	(0)	18	85.7	(6)	8	100.0	(6)	26	89.7	254	97.0	
(地域生活)	進 学 先 特別支援学級・特別支援学校																						
	三療養成機関(あんま・鍼・灸)																						
	職 業 訓 練 校 等																						
	小 計	0	(0)	0	(0)	0	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	0									
	自 営																						
施設等	職 業 職 場 復 帰 新 規 就 労																						
	小 計	0	(0)		(0)	0	0	(0)		(0)		(0)	0	(0)	0	(0)	0	0			0		
	療 養 介 護 支 援																						
	生 活 介 護 支 援																						
	自 立 訓 練 (機 能 訓 練)																						
施設等	自 立 訓 練 (生 活 訓 練)	1				1																	
	就 労 継 続 支 援 B 型																						
	就 労 継 続 支 援 A 型		14.3		—		9.1		—		14.3		—		10.3							1.5	
	特 別 養 護 老 人 ホ ー ム																						
	老 人 保 健 施 設																						
施設等	知 的 障 害 児 施 設																						
	そ の 他 旧 法 施 設																						
	小 計	1	(0)		(0)	1	0	(0)	3	(0)	3	(0)	0	(0)	3						4		
	医 療 機 関																						
	死 亡																						
合 計		7	100.0	(0)	4	100.0	(0)	11	100.0	222	100.0	(0)	21	100.0	(6)	8	100.0	(6)	29	100.0	262	100.0	

イ 退所児（者）の在所期間の状況

(単位 人)

施設名			退所児 (者) 数	在所期間														計
				1 月 未 満	1 〜 2 月	2 〜 3 月	3 〜 4 月	4 〜 5 月	5 〜 6 月	0.5 〜 1 年	1 〜 1.5 年	1.5 〜 2 年	2 〜 3 年	3 〜 5 年	5 〜 10 年	10 年 以 上		
七 沢 学 園	児 童	実 数	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	1	7		
		構 成 比 (%)	-	14.3	-	-	-	-	14.3	-	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	100.0		
	成 人	実 数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	(0)		
		構 成 比 (%)	-	-	-	-	-	25.0	-	-	-	75.0	-	-	-	100.0		
	小 計	実 数	0	1	0	0	0	1	1	0	1	4	1	1	1	(0)		
		構 成 比 (%)	-	9.1	-	-	-	9.1	9.1	-	9.1	36.4	9.1	9.1	9.1	100.0		
七沢療育園		実 数	218	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		4	222		
		構 成 比 (%)	98.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.8	100.0		
七 沢 自 立 支 援 ホ ー ム	肢体不自由	実 数	0	0	0	0	1	2	5	10	3	0	0	0	0	(0)		
		構 成 比 (%)	-	-	-	-	4.8	9.5	23.8	47.6	14.3	-	-	-	-	100.0		
	視覚障害	実 数	(1)	0	2	0	(1)	(1)	(2)	(1)		0	0	0	0	(6)		
		構 成 比 (%)	-	-	25.0	-	12.5	-	50.0	12.5	-	-	-	-	-	100.0		
	小 計	実 数	(1)	0	2	0	(1)	(1)	(2)	(1)	3	0	0	0	0	(6)		
		構 成 比 (%)	-	-	6.9	-	6.9	6.9	31.0	37.9	10.3	-	-	-	-	100.0		
	計		実 数	(1)	1	2	0	(1)	(1)	(2)	(1)	4	4	1	1	5	(6)	
			構 成 比 (%)	83.2	0.4	0.8	-	0.8	1.1	3.8	4.2	1.5	1.5	0.4	0.4	1.9	100.0	

注 () 書きは、通所者で外書きとする。

注 療育園入所については長期・短期の利用者である。

(6) 施設別苦情受付件数

施 設 名	委員受付				施設受付				外部受付				計			
	苦情	相談	感謝	要望	苦情	相談	感謝	要望	苦情	相談	感謝	要望	苦情	相談	感謝	要望
七沢学園（児童・成人）	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0
七 沢 療 育 園	1	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	0
七沢自立支援ホーム(肢体・視覚)	0	13	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	3	13	0	2
計	1	30	1	2	6	0	0	0	0	0	0	0	7	30	1	2

(7) 利用者満足度調査

七沢学園（児童・成人）	3.5 / 4点
七 沢 療 育 園	3.7 / 4点
七沢自立支援ホーム	3.6 / 4点

(8) 各福祉施設における特徴的な利用者支援

ア 七沢学園

区分		実人数	延人数	一日平均人数
強度行動障害児者 受入者数 ※1	児童	1	306	0.8
	成人	6	2,190	6.0
医療重度者 ※2		4	1,460	4.0

※1 強度行動障害児者は、県において判定された者以外に、七沢学園において同様の対応が必要な利用者を含む。

※2 医療重度者とは、難治性てんかん、腎不全、胃瘻等で特に医療管理が必要な者をいう。

イ 七沢療育園

区分	実人数	延人数	一日平均人数
超・準超重症児者 受入数 ※1	47 (短期含む) (内長期14)	5,447 (短期含む) (内長期4,897)	14.9 (短期含む) (内長期14)
短期利用者数	236	1,192	3.3

※1 人工呼吸器などの呼吸管理、気管内挿管、頻回の吸引などにより医療管理と看護を必要とする重症心身障害児者

ウ 七沢自立支援ホーム

(7) 単身生活に向けた支援

区分	人数
単身者の地域移行者数	6

注 家族介護者がなく、療養中における住居喪失者や、頸損等重度の障害者への自立した単身生活へ支援

(4) 退所者の障害別内訳

区分	人数
脊髄損傷(うち四肢麻痺)	5
脳外傷者	1
脳血管障害者	12
脳性麻痺	0
二分脊椎	0
その他神経疾患等	3
視覚障害者	8
合計	29

(9) 視覚障害者への訪問訓練実績

区分	件数
訪問訓練実績	3

(9) 各福祉施設におけるリハビリテーション・支援の状況

ア 理学療法の状況

施 設 \ 区 分			人 数		件 数	
			(人)	構成比 (%)	(件)	構成比 (%)
福 祉 局	七沢学園	児 童	0	-	0	-
		成 人	0	-	0	-
	七 沢 療 育 園		36	52.9	729	24.3
	七沢自立支援ホーム		32	47.1	2,272	75.7
計			68	100.0	3,001	100.0

イ 作業療法の状況

区 分 施 設			人 数		件 数		自 助 具 ス プ リ ン ト	自 動 車 そ の 他	A D L 室 訓 練 数	家 庭 訪 問
			(人)	構 成 比 (%)	(件)	構 成 比 (%)				
福 祉 局	七 沢 学 園	児 童	0	-	0	-	0	0	0	0
		成 人	0	-	0	-	0	0	0	0
	七 沢 療 育 園		6	15.8	64	1.6	2	0	0	0
	七 沢 自 立 支 援 ホ ー ム		32	84.2	3,920	98.4	10	96	65	12
	計		38	100.0	3,984	100.0	12	96	65	12

ウ 言語訓練の状況

施設名 区 分	七 沢 学 園		七 沢 療育園	七沢自立支援ホーム	計
	児 童	成 人			
件 数	0	0	24	691	715
構成比 (%)	-	-	3.4	96.6	100.0

エ 職能訓練・支援の状況

施設名 区分		七沢自立 支援ホーム	
		件 数	構成比 (%)
評価	職 能 評 価	16	2.7
	受 託 評 価	348	58.8
作業 支援	事 務 系 作 業	0	-
	手 工 芸 系 作 業	0	-
就労 支援	職 業 準 備 訓 練	0	-
	職 業 準 備 学 習	0	-
	個 別 事 務 系 作 業	222	37.5
職場内リハビリテーション		0	-
相談 支援	本 人 面 接	6	1.0
	家 族 面 接	0	-
	関 係 者 面 接	0	-
計		592	100.0

オ 心理科の状況

施設名 区 分	七 沢 学 園				七沢療育園		七沢自立支援ホーム				受 託 評 価		計	
	児 童		成 人				肢体不自由部門		視覚障害部門					
	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)	件数	構成比 (%)
心 理 テ ス ト	0	-	16	39.0	0	-	30	22.2	1	3.7	27	96.4	74	29.4
心 理 面 接	0	-	0	-	0	-	15	11.1	11	40.7	1	3.6	27	2.9
行 動 観 察	0	-	0	-	0	-	2	1.5	2	7.4	0	-	4	7.2
心 理 治 療	0	-	23	56.1	46	100.0	72	53.3	12	18.2	0	-	153	54.0
家 族 面 接 他	0	-	2	4.9	0	-	16	11.9	1	3.7	0	-	19	6.5
計	0	0.0	41	100.0	46	100.0	135	100.0	27	100.0	28	100.0	277	100.0

カ 体育指導の状況

施設名 区 分		七 沢 学 園				七沢自立支援ホーム				計	
		児 童		成 人		肢体不自由部門		視覚障害部門			
		件 数	構成比 (%)	件 数	構成比 (%)	件 数	構成比 (%)	件 数	構成比 (%)	件 数	構成比 (%)
訓 練	室内訓練	0	-	0	-	2,562	77.5	182	75.2	2,744	77.4
	屋外訓練	0	-	0	-	641	19.4	46	19	687	19.4
	水泳訓練	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
評 価		0	-	0	-	102	3.1	14	5.8	116	3.3
計		0	-	0	-	3,305	100.0	242	100.0	3,547	100.0

キ リハビリテーション工学の状況

義肢製作及び評価等の状況

施 設 名 区 分	七沢学園	七沢療育園	七沢自立支援ホーム		計	構成比(%)
			肢体不自由部門	視覚障害部門		
K R R C	0	0	0	0	0	0.0
義肢製作及び評価	0	0	0	0	0	0.0
補装具製作及び試作	0	0	0	0	0	0.0
歩行・動作計測	0	0	0	0	0	0.0
車いす設計・製作及び評価	0	0	0	0	0	0.0
座 圧 計 測	0	45	33	0	78	78.8
ボクシンググローブ、製作及び評価	0	0	4	0	4	4.0
意志伝達装置 設計・製作及び評価	0	0	0	0	0	0.0
住宅改修設計および評価	0	0	0	0	0	0.0
エシニニアリンク・サービス	0	2	15	0	17	17.2
計	0	47	52	0	99	100.0
構 成 比 (%)	0.0	47.5	52.5	0	100.0	

注1 義肢製作及び評価には、修理を含む。

注2 地域支援はその他を含む。

(10) 給食業務の状況

区分 施設名		入 所 児 者 数								短期 利用等 入所者	指導食	検食・ 保存食	計
		常食	構成比	軟流動食	構成比	特別食	構成比	小計	構成比				
七沢学園	児童	24,934	23.6 %	0	- %	0	- %	24,934	23.6 %	836	0	2,190	27,960
	成人	20,966	19.9 %	1,085	99.1 %	706	0.7 %	22,757	21.6 %	907	1,095	0	24,759
七沢療育園		0	- %	30,652	29.0 %	2,818	2.7 %	33,470	31.7 %	1,589	1,095	0	36,154
七沢自立支援ホーム		9,530	9.0 %	326	0.4 %	14,465	13.7 %	24,321	23.1 %	968	0	1,095	26,384
計		55,430	52.6 %	32,063	30.4 %	17,989	17.1 %	105,482	100.0 %	4,300	2,190	3,285	115,257

注 1 短期利用等入所者は、受託評価及び短期入所者の給食とする。

2 七沢学園（成人）及び七沢自立支援ホームの通所者の給食は、入所児者数に含む。

2 病院事業

神奈川リハビリテーション病院では、脊髄損傷、脳外傷等の後天性脳損傷（高次脳機能障害）、変形性股関節症等の骨関節疾患、脳血管障害、神経難病、小児神経疾患を中心に早期社会復帰に向けたリハビリテーション医療を行っている。

令和7年度の入院患者数は、延 80,169 人（実入院患者数 1,166 人）で、一日平均の入院患者数は 219.6 人（一日平均入院率 78.4%）であった。退院患者数は、1,205 人で、自宅復帰が 1,013 人（84.1%）となっている。外来患者数は、延 47,235 人（一日平均 195.2 人）であった。

厚生労働省の施策に基づき、医療機関の役割分担の観点からかかりつけ医などからの紹介状を持って受診をいただくことに重点をおいた「紹介受診重点医療機関」となった。

公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を令和7年12月3日から5日にかけて受審した。主機能はリハビリテーション病院とし、副機能として一般病院1、高度・専門機能（回復期）を受審した。その後補足的な審査が必要となったが、審査結果は令和8年度に明らかになる予定である。

電子カルテ等医療系システムを更新し、令和7年10月14日から新システムの稼働となった（NEC MegaOak-MI・RA・Is V）。これにともない、自動精算機、デジタルサイネージが新設されるとともに、手術システム、服薬指導システム、生理検査システム等のシステムが新たに導入された。また、看護業務等 ICT 導入支援を活用し、看護師の業務効率化を目的としたスポットチェックシステムの導入も行った。

(1) 病院利用状況 (単位 人)	
区 分	神奈川リハ病院
前年度末在院患者数	233
入院患者数	1,166
退院患者数	1,205
一日平均患者数	219.6
一日平均入院率 (%)	78.4
平均在院日数 (日)	66.6
年度末在院患者数	194
年間延入院患者数 (診療実日数 365 日)	80,169
一日平均外来患者数	195.2
年間延外来患者数 (診療実日数 242 日)	47,235

注1 一日平均外来患者数は、診療実日数（基本週 5 日）で計上している。

2 平均在院日数の算定方法は、入院患者延べ数で計算している。

3 平均在院日数は回復期病棟等の入院患者の平均在院日数も含む。

(2) 入院及び外来患者の状況

ア 診療科別の状況

(単位 人)

診療科	入 院		外 来	
	年間延患者数	構成比 (%)	年間延患者数	構成比 (%)
内 科	51	0.1	3,915	8.3
神 経 内 科	9,205	11.5	2,452	5.2
小 児 科	5,994	7.5	4,826	10.2
外 科	0	-	456	1.0
整 形 外 科	25,746	32.1	13,523	28.7
脳 神 経 外 科	5,058	6.3	3,368	7.1
皮 膚 科	0	-	1,778	3.8
泌 尿 器 科	1,496	1.9	5,073	10.7
婦 人 科	0	-	0	-
眼 科	0	-	1,093	2.3
耳 鼻 咽 喉 科	0	-	863	1.8
リハビリテーション科	32,604	40.6	6,828	14.5
放 射 線 科	0	-	114	0.2
麻 酔 科	0	-	0	-
歯 科 口 腔 外 科	15	0.0	2,946	6.2
計	80,169	100.0	47,235	100.0

注 延患者数は、主たる診療科で計上している。

イ 主な疾患別受入実績 (単位 人)

区分	人数
脊髄損傷者	85
(うち四肢麻痺者)	34
高次脳機能障害者	248
神経難病患者	53
小児神経疾患患者	92

(3) 科別手術の状況

ア 診療科別内訳

診療科	件数	構成比(%)
内科	0	-
神経内科	0	-
小児科	0	-
外科	0	-
整形外科	276	67.2
脳神経外科	1	0.2
泌尿器科	126	30.7
耳鼻咽喉科	1	0.2
リハビリテーション科	1	0.2
歯科口腔外科	6	1.5
計	411	100.0

イ 病棟別内訳

病棟	件数	構成比(%)
3A	42	10.2
4A	2	0.5
4B	275	67.0
5A	1	0.2
5B	2	0.5
3F	38	9.2
4F	50	12.2
ICU	1	0.2
外来	0	-
療育園	0	-
計	411	100.0

(4) 紹介・逆紹介率実績

区分	実績
紹介率	53.9%
逆紹介率※	60.8%

(5) セカンドオピニオン実績

件数
2

※ 逆紹介とは、地域のかかりつけ医や介護保険事業所等に診療情報の提供を行う場合や、脳卒中地域連携バスによる地域への情報提供をいう。

(6) 診療科別平均在院日数

診療科	平均在院日数
内科	13.4
神経内科	84.5
小児科	58.6
外科	-
整形外科	54.3
脳神経外科	107.8
皮膚科	-
泌尿器科	11.0
眼科	-
耳鼻咽喉科	-
リハビリテーション科	97.7
歯科口腔外科	1.1
全科	66.6

(7) 病棟別利用率・平均在院日数

病棟	利用率	平均在院日数
3A	70.3%	45.7
4A	86.5%	80.0
4B	76.7%	40.2
5A	75.1%	74.7
5B	89.2%	97.5
3F	77.3%	89.6
4F	72.7%	77.4
全病棟	78.4%	66.6

(8) 退院患者の状況

高次脳障害		転帰(退院経路)									
		自宅		施設		転院		死亡		合計	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
入院経路	自宅	25	2.1	1	0.1	0	—	0	—	26	2.2
	施設	1	0.1	10	0.8	0	—	0	—	11	0.9
	転院	143	11.9	22	1.8	18	1.5	0	—	183	15.2
	小計	169	14.0	33	2.7	18	1.5	0	—	220	18.3

脊髄損傷		転帰(退院経路)									
		自宅		施設		転院		死亡		合計	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
入院経路	自宅	4	0.3	0	—	0	—	0	—	4	0.3
	施設	0	—	0	—	0	—	0	—	0	0.0
	転院	21	1.7	4	0.3	12	1.0	0	—	37	3.1
	小計	25	2.1	4	0.3	12	1.0	0	—	41	3.4

変形性股関節症		転帰(退院経路)									
		自宅		施設		転院		死亡		合計	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
入院経路	自宅	169	14.0	0	—	1	0.1	0	—	170	14.1
	施設	1	0.1	0	—	0	—	0	—	1	0.1
	転院	4	0.3	1	0.1	0	—	0	—	5	0.4
	小計	174	14.4	1	0.1	1	0.1	0	—	176	14.6

小児		転帰(退院経路)									
		自宅		施設		転院		死亡		合計	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
入院経路	自宅	54	4.5	0	—	1	0.1	0	—	55	4.6
	施設	0	—	0	—	0	—	0	—	0	0.0
	転院	36	3.0	0	—	13	1.1	0	—	49	4.1
	小計	90	7.5	0	—	14	1.2	0	—	104	8.6

その他		転帰(退院経路)									
		自宅		施設		転院		死亡		合計	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
入院経路	自宅	272	22.6	6	0.5	11	0.9	1	0.1	290	24.1
	施設	0	—	12	1.0	1	0.1	1	0.1	14	1.2
	転院	283	23.5	23	1.9	51	4.2	3	0.2	360	29.8
	小計	555	46.1	41	3.4	63	5.2	5	0.4	664	55.0

全体		転帰(退院経路)									
		自宅		施設		転院		死亡		合計	
		(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
入院経路	自宅	524	43.5	7	0.6	13	1.1	1	0.1	545	45.3
	施設	2	0.2	22	1.8	1	0.1	1	0.1	26	2.2
	転院	487	40.4	50	4.1	94	7.8	3	0.2	634	52.6
	合計	1,013	84.1	79	6.6	108	9.0	5	0.4	1,205	100.0

(9) 地域別入院患者の状況

(単位 人)

区 分	患者数	構成比 (%)
横 浜 市	108	9.2
川 崎 市	43	3.7
相 模 原 市	64	5.5
横 須 賀 市	8	0.7
鎌 倉 市	7	0.6
逗 子 市	2	0.2
三 浦 市	3	0.3
葉 山 町	0	-
藤 沢 市	37	3.2
茅 ヶ 崎 市	17	1.5
寒 川 町	16	1.4
平 塚 市	76	6.5
秦 野 市	65	5.5
伊 勢 原 市	60	5.1
大 磯 町・二 宮 町	7	0.6
厚 木 市	316	27.1
大 和 市	13	1.1
海 老 名 市	47	4.0
座 間 市	22	1.9
綾 瀬 市	13	1.1
愛 川 町・清 川 村	52	4.5
小 田 原 市	29	2.5
南 足 柄 市	11	0.9
足 柄 上 郡	16	1.4
足 柄 下 郡	7	0.6
県 内 計	1,039	89.1
東 京 都	77	6.6
そ の 他	50	4.3
県 外 計	127	10.9
合 計	1,166	100.0

※ 七沢療育園は除く。

(10) 薬剤業務の状況

ア 調剤件数

施設名 区分		入院	外来	計
処方せん枚数		36,606	14,719	51,325
内 服	件数	97,508	31,213	128,721
	延剤数	726,229	1,517,541	2,243,770
	構成比 (%)	75.8	24.2	100.0
外 用	件数	7,286	10,749	18,035
	延剤数	51,643	168,980	220,623
	構成比 (%)	40.4	59.6	100.0
頓 服	件数	5,705	958	6,663
	延剤数	26,305	11,214	37,519
	構成比 (%)	85.6	14.4	100.0
計	件数	110,499	42,920	153,419
	延剤数	804,177	1,697,735	2,501,912
	構成比 (%)	72.0	28.0	100.0

注 構成比は、件数に対する比率で、神奈川リハ病院の入院には七沢療育園を含む。

イ 注射薬払い出し件数・製剤件数

施設名 区 分	注 射 薬				製 剤
	枚 数	件 数	延剤数	構成比 (%)	件 数
入 院	7,622	18,797	18,797	71.7	20
外 来	4,071	7,422	7,422	28.3	
計	11,693	26,219	26,219	100.0	

ウ 薬剤管理指導業務

服薬指導延患者数	3,335 人
服薬指導延回数	10,078 回
算 定 件 数	7,820 件

エ 後発薬品採用率

使 用 割 合	39.8 %
---------	--------

(11) 検査業務の状況

検査項目 \ 区分	院内処理件数	委託件数（外注）	計
一般検査	74,187	5	74,192
血液学的検査	102,059	58	102,117
臨床化学的検査	216,189	1,832	218,021
内分泌学的検査	3,411	436	3,847
免疫学的検査	18,541	2,203	20,744
微生物学的検査	9,539	16	9,555
生理機能検査	4,242	0	4,242
病理学的検査	0	163	163
解剖	0	0	0
その他検体検査	8,304	0	8,304
計	436,472	4,713	441,185

区分	件 数	構成比 (%)
入院	190,712	43.2
外来	250,473	56.8
計	441,185	100.0

(12) 放射線業務の状況

ア 放射線撮影件数

(単位 件)

撮影区分 区 分	透視	撮 影					合 計
		造 影	一 般	断 層	歯 科	小 計	
入 院	50	7	5,597	391	0	5,995	6,045
外 来	35	19	12,967	802	0	13,788	13,823
計	85	26	18,564	1,193	0	19,783	19,868

イ R I 検査回数

(単位 回)

検査区分 区 分	シンチグラフィー	機 能 検 査	試 料 測 定	計
入 院	74	0	0	74
外 来	141	38	0	179
計	215	38	0	253

ウ コンピュータ X線断層撮影件数

撮影区分 区 分	単 純		造 影		計	
	件 数	回 数	件 数	回 数	件 数	回 数
入 院	1,268	413,960	58	19,550	1,326	433,510
外 来	2,126	619,281	27	13,750	2,153	633,031
計	3,394	1,033,241	85	33,300	3,479	1,066,541

エ MR検査件数

撮影区分 区 分	単 純	造 影	計
	件 数	件 数	件 数
入 院	894	3	897
外 来	1,549	5	1,554
計	2,443	8	2,451

(13) 給食業務の状況

ア 病院延給食数

(単位 食)

区 分	常 食	軟流動食	特 別 食	検食・保存食	計
食 数	53,568	14,027	162,766	5,847	236,208

イ 栄養指導業務

栄養指導延患者数	997人
栄養指導延回数	841回
算 定 件 数	839件

(14) 理学療法の状況

施設	区分	単位数	人 数		件 数		ブレースクリニック		マッサージ	社会環境 訓練	家庭訪問
			(人)	構成比 (%)	(件)	構成比 (%)	処方数	対応数			
病院	入院	160,584	1,206	58.6	78,181	92.7	241	782	0	42	97
	外来	12,407	852	41.4	6,198	7.3	444	884	65	0	0
計		172,991	2,058	100.0	84,379	100.0	685	1,666	65	42	97

(15) 作業療法の状況

施設	区分	単位数	人 数		件 数		自 助 具 スプリント	自 動 車 そ の 他	A D L 室 訓 練 数	家庭訪問
			(人)	構成比 (%)	(件)	構成比 (%)				
病院	入院	123,970	898	76.7	55,362	96.8	594	1,252	867	89
	外来	3,959	273	23.3	1,814	3.2				0
計		127,929	1,171	100.0	57,176	100.0	594	1,252	867	89

(16) 言語訓練の状況

	入 院	外来個別訓練	外来集団訓練	計
件数	17,648	602	26	18,276
単位数	34,147	1,368	63	35,578
構成比 (%)	96.6	3.4	—	100.0

(17) 1患者当りの訓練実施件数の実績(PT・OT・ST)

区分	令和7年度実績
回復期病棟	5.63単位
一般病棟	3.32単位

(18) 心理検査等の状況

区 分	入 院	外 来	計
	件 数	件 数	件 数
心 理 テ ス ト	3,831	1,243	5,074
心 理 面 接	477	11	488
行 動 観 察	1,023	27	1,050
心 理 治 療	9,044	1,616	10,660
家 族 面 接 他	1,656	1,067	2,723
計	16,031	3,964	19,995

(19) 職能訓練の状況

ア 訓練種別施設別訓練件数

施設名		神奈川リハ病院		計
		入 院	外 来	
区分		件 数	件 数	件 数
評価	職 能 評 価	2,207	130	2,337
	受 託 評 価	-	-	0
機能訓練	事 務 系 作 業	3,391	287	3,678
	実 務 系 作 業	1,509	69	1,578
就労支援	個 別 事 務 系 訓 練	5,533	751	6,284
	個 別 実 務 系 訓 練	2,904	61	2,965
	集 団 訓 練	32	613	645
職場	内リハビリテーション	0	0	0
相談支援	本 人 面 接	649	1,590	2,239
	家 族 面 接	0	226	226
	関 係 者 面 接	0	103	103
計		16,225	3,830	20,055

注1：評価・機能訓練・就労支援・相談支援は、20分を1件としてカウントしている。

2：職場内リハは事業所の中で事業所の協力の下で実施した。1時間を1件としている。

イ 障害別訓練状況

区分	人数
外傷性脳損傷	90
脳血管障害	202
脊髄障害	80
脳疾患	15
知的障害	0
その他	37
合計	424

ウ 障害別就労者数

(単位 人)

区分	新規就労	復職	自営業	合計
外傷性脳損傷	2	3	0	5
脳血管障害	2	19	4	25
脊髄障害	1	4	0	5
脳疾患	1	2	0	3
知的障害	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
合計	6	28	4	38

エ 就職・復職実績

(単位 人)

区分	入院	外来	七沢自立支援ホーム	計
新規就労	0	6	0	6
復職	8	20	0	28
自営	3	1	0	4
合計	11	27	0	38

(20) 体育指導の状況

施設名 区 分		神奈川リハ病院	計
		件 数	構成比
訓 練	室内訓練	11,961	73.8%
	屋外訓練	2,990	18.4%
	水泳訓練	0	-
評 価		1,262	7.9%
計		16,213	100.0%

(21) リハビリテーション工学の状況

義肢製作及び評価等の状況

(単位 件)

施設名 区 分		神奈川リハ病院		そ の 他	計
		入 院	外 来		
K R R C製作及び評価		13	217	0	230
義 肢 製 作 及 び 評 価		152	515	0	667
装 具 製 作 及 び 試 作		58	34	0	92
歩 行 ・ 動 作 計 測		39	36	0	75
G R A I L の 対 応		178	45	31	254
車いす・姿勢保持装置設計・ 製 作 及 び 評 価		238	120	2	360
座 圧 分 布 計 測		74	12	1	87
コミュニケーション支援		117	0	0	117
住宅改修設計および評価		0	0	0	0
エン지니어リング・サービス		29	90	0	119
計		898	1,069	34	2,001
構 成 比 (%)		44.9	53.4	1.7	100.0

注1 義肢製作及び評価には、修理を含む。

注2 地域支援はその他を含む。

(22) プレース・クリニックの実施状況(含む脳卒中装具外来)

(単位:件)

施設名 区分	入院		外来		七沢療育園		七沢学園		七沢自立支援ホーム		作製合計	修理合計
	作製	修理	作製	修理	作製	修理	作製	修理	作製	修理	件数	件数
義肢	3	0	26	26	0	0	0	0	0	0	29	26
装具	134	5	150	35	0	0	0	0	0	1	284	41
車椅子	28	12	59	36	2	10	0	1	1	6	90	65
電動車いす	2	2	2	4	0	0	0	0	1	0	5	6
座位保持装置	3	0	17	10	4	0	0	0	0	1	24	11
その他	8	0	8	0	0	0	1	0	0	0	17	0
合計	178	19	262	111	6	10	1	1	2	8	449	149

※ 電動車椅子は、県・相模原更生相談所依頼分を除く

(23) 総合相談室の状況

ア 総合相談室 相談・対応件数

対象	本人	家族	外部機関	当院スタッフ	その他	合計
件数	6,578	6,230	6,263	10,245	91	29,407

内容	受診入院相談	在宅ケア	活動参加支援	転院・施設入所	補装具・福祉機器・住宅改修	生活支援	その他	合計
件数	1,649	11,491	4,172	1,181	3,686	4,140	14,091	40,410

イ 在宅難病者患者等緊急一時入院

相談件数	利用者延人数	利用実人数	利用延べ日数
3件	3人	2人	30日

ウ アドボカシーの状況

a 内容別件数

区分	苦情	要望	感謝	その他	計
件数	22	55	7	3	87

b 申出者別件数

区分	本人	家族	不明	その他	計
件数	37	15	35	0	87

c 対象別件数(※重複あり)

区分	診療部	看護部	リハ部	管理課	その他	計
件数	9	19	10	57	1	96

(24) 相談の状況

区 分 施設名		相談件数	方法								対象					
			面接	電話	訪問	文章	カンファ	院内情報交換・ 調整	その他	小計	本人	家族	外部機関 (連絡・調整)	当院スタッフ	その他	小計
神奈川リハ 病 院	件 数	26,009	6,076	8,731	130	2,111	1,365	5,853	1,743	26,009	6,575	6,216	6,173	10,073	89	29,126
	達成率(%)	99.0%	99.9%	99.0%	99.2%	98.9%	99.6%	97.8%	100.0%	99.0%	100.0%	99.8%	98.6%	98.3%	97.8%	99.0%
七 沢 療 育 園	件 数	257	7	88	1	23	6	132	0	257	3	14	90	172	2	281
	達成率(%)	1.0%	0.1%	1.0%	0.8%	1.1%	0.4%	2.2%	0.0%	1.0%	0.0%	0.2%	1.4%	1.7%	2.2%	1.0%
計	件 数	26,266	6,083	8,819	131	2,134	1,371	5,985	1,743	26,266	6,578	6,230	6,263	10,245	91	29,407
	達成率(%)	100.0%	26.7%	33.8%	0.6%	6.7%	3.4%	24.2%	4.5%	100.0%	22.9%	22.5%	23.3%	31.0%	0.3%	100.0%

区 分 施設名		受相談・入院入所	内 容																		
			在宅ケア				活動参加支援				転院・施設入所		住改・機器活用		生活支援			その他			小計
			ケアプラン	高齢系	障害系	サービス医療系	参加プラン	日中活動	就労	就学	転院相談	施設入所相談（有料）	福祉機器	補装具	医療・利用費	経済生活	家族支援	疾病障害	課題解決・支援	その他	
神奈川県病院	件数 達成率(%)	1,646 99.8%	3,085 100.0%	2,548 100.0%	2,559 100.0%	3,299 100.0%	1,710 100.0%	1,726 100.0%	656 100.0%	80 100.0%	355 92.2%	796 100.0%	1,438 99.9%	2,106 93.8%	955 99.8%	675 99.9%	2,484 99.1%	2,719 99.3%	5,572 99.7%	5,745 99.7%	40,154 99.4%
七沢療育園	件数 達成率(%)	3 0.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	30 7.8%	0 0.0%	2 0.1%	140 6.2%	2 0.2%	1 0.1%	23 0.9%	20 0.7%	18 0.3%	17 0.3%	256 0.6%
計	件数 達成率(%)	1,649 4.1%	3,085 7.6%	2,548 6.3%	2,559 6.3%	3,299 8.2%	1,710 4.2%	1,726 4.3%	656 1.6%	80 0.2%	385 1.0%	796 2.0%	1,440 3.6%	2,246 5.6%	957 2.4%	676 1.7%	2,507 6.2%	2,739 6.8%	5,590 13.8%	5,762 14.3%	40,410 100.0%

(25) 地域連携室の状況

ア 入院相談件数等

(単位:件)

相談総数	相談のみ	入院申込数					
			承認前 辞退等	不承認	承認	辞退	入院決定数
1,911	319	1,592	0	95	1,497	351	1,146

イ 相談からの日数

区 分	相談～ 入院までの日数	相談～ 辞退までの日数	相談～ 決定・連絡までの日数
日 数	17.5日	11.7日	10.4日

ウ 地域連携室で受けた相談全体の種類と件数

区 分	入院相談 調整	外来受診相談	転院検索調整	他院予約調整	地域との連絡調整	情報提供	在宅療養相談	その他	合 計
件 数	1,911	132	23	0	81	95	1	8	2,251

3 リハビリテーション研究事業

神奈川リハビリテーション病院研究部では、障害者等の自立生活促進や継続支援を目的に、リハビリテーションに関する調査、研究・開発を行っている。また、これらの成果物を対外的に発信する中で、高度専門性の構築も目指している。

(1) リハビリテーションに関する調査、研究・開発

研究は、以下ア～ウを視点に、医学的、工学的、社会福祉学的領域において調査、研究・開発を行い医療・福祉の向上に向け取り組んだ。また、当センターの調査、研究・開発経験を活かし、企業との共同研究、受託研究を実施した。

ア 障害発生の原因の解明とそれに基づく予防対策の確立

イ 障害発生除去、修復メカニズムの解明

ウ 障害者の自立促進のための研究

研究の主な対象としては、神奈川リハビリテーション病院では、①骨関節疾患（変形性関節症）、②脊髄損傷及び脊髄疾患、③神経難病（小児神経疾患を含む）、④高次脳機能障害（外傷性脳損傷、脳卒中など）である。

また、ドライビング・シミュレーター（DS7000、三菱プレジジョン株式会社）を用いた運転評価もおこなっており、専門性の高いリハビリテーションの提供に向けて研究を実施している。

(2) 情報提供・情報発信

区分	主な事業
撮影業務	静止画（事務作業支援含む） 24 件
図書業務	文献複写支援件数 11 件
	定期購読中の雑誌
	国内誌 紙媒体 31 タイトル
	国外誌 電子媒体(単体) 6 タイトル
	Ovid(パッケージ) 137 タイトル
	(Book 105・Journal 31・その他 1)
	令和 7 年度製本雑誌
	国内(和雑誌) 88 冊
	国外(洋雑誌) 0 冊
研究・研修事業	神奈川県総合リハビリテーションセンター 第 49 回研究発表会 開催
その他	研修などのポスター作製の支援 52 件

(3) 研究発表会

神奈川県総合リハビリテーションセンター研究発表会の実施状況は下記のとおりである。

ア	開催回数 (通算)	49 回目
イ	日 時	令和 8 年 2 月 18 日 (水) 12 : 50 ~ 18 : 30
ウ	場 所	神奈川リハビリテーション病院 3 階研修室
エ	参 加 者 数	119 名
オ	発 表 内 容	

I 一般演題 計 16 題

内訳 看護交流会受賞演題 1 題, 応募口演発表 14 題, 応募ポスター発表 1 題

II シンポジウム

テーマ 「地域で支えるパラスポーツ -多職種がつなぐ参加の場づくり-

<座長> 横山 修

(神奈リハ病院 診療部長/診療部 リハビリテーション科部長)

石井 宏明

(神奈リハ病院 リハビリテーション部 体育科長/リハ工学科長)

<シンポジスト>

「パラスポーツ体験会の企画と運営 -地域と病院をつなぐ場づくり-

鰻田 亜矢 (神奈リハ病院 リハビリテーション部 体育科)

「パラスポーツ体験会に参加して -生活や気持ちの変化、仲間づくり-

安海 哲人 氏 (神奈川県総合リハビリテーション事業団 事務局 総務課)

「看護職がかかわるパラスポーツの現場 -ケアから社会参加への支援-

小清水 一美 (神奈リハ病院 看護部 集中治療室)

「リハ職が関わるパラスポーツの現場 -参加を支える連携とつながり-

窪田 祐奈 (神奈リハ病院 リハビリテーション部 作業療法科)

「地域で活動するパラスポーツクラブチームの現状と医療機関とのつながり」

浅井 直樹 氏

(神奈川 JUNKS 監督/神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 助教)

「神奈川県におけるパラスポーツ普及の施策 -行政と地域の連携を通して-

佐野 圭子 氏

(神奈川県 文化スポーツ観光局 スポーツ課 健康・パラスポーツ推進室
健康・パラスポーツ推進グループ グループリーダー)

III 特別講演

テーマ 「地域に根ざしたパラスポーツ普及と医学的支援」

田島 文博 先生

(医療法人ちゅうざん会 ちゅうざん病院 病院長)

(4) かながわりハビリロボットクリニック (Kanagawa Rehabili Robot Clinic (KRRC))
の取り組み

筋電義手の処方・訓練など筋電義手の普及に向けた取組、ロボットリハビリテーションの実施、企業等への開発支援を行った。

筋電義手の処方・訓練については、「未来筋電義手センター」として乳幼児を含め実施している。特に乳幼児の患者については、義手に慣れる必要から比較的軽い装飾用義手を装着し欠損肢の延長イメージを得ることから始め、年齢や習熟度に応じて筋電義手へ移行していく。訓練内容については、小児の場合であれば好きな遊びや、日常生活や保育園、学校などにおける課題やニーズに合わせ訓練内容を患者個人ごとに工夫した。また、電極の位置やソケットのフィット感、使用に当たり痛みや不快感が無いよう適切なソケットの製作に取り組んだ。令和7年度は21名の患者が訓練を行った。アウトリーチ支援として県立こども医療センターと川崎市複合福祉センター「ふくふく」と連携し訓練等を実施した。患児の通う幼稚園、保育園、学校に必要なに応じて訪問し情報交換を行った。また、当事者とその家族を集めた家族会「MIRAI ラボ」を開催し先輩当事者の話や同じ症状の子どもたち同士と一緒に遊べるプログラムを提供し、ピアサポートを促すとともに当事者の交流の場、情報交換の場を設けた。

ロボットを活用したリハビリテーションでは、主に脊髄損傷の患者を対象に HAL®を活用した歩行訓練を行った。

企業への開発支援として、ドライビングシミュレータの開発支援の他2件を行った。さがみロボット産業特区における実証実験は本年度依頼が無かった。

ア 相談者の状況

区 分	今年度累計	
	件数	構成比
個 人	2	14.2%
本 人	1	7.1%
家 族	1	7.1%
福祉関係施設	0	-
医療機関	0	-
大学・研究機関	0	-
企 業	10	71.5%
国	0	-
地方自治体	2	14.3%
その他	0	-
合 計	14	100.0%

イ 相談内容

項 目	今年度累計	
	件数	構成比
筋電義手	2	14.3%
ロボットリハビリの実施について	1	7.1%
実証実験の実施について	3	21.4%
さがみロボット産業 特区関係	0	-
さがみロボット産業 特区以外の実証実験	3	21.4%
その他	8	57.2%
合 計	14	100.0%

(5) 障害者スポーツの支援

ア かながわ障害者スポーツ支援部門 (Kanagawa Para-Sports Support Project (K P S P))

神奈川県における障害者スポーツ・競技・レジャー（以下「障害者スポーツ等」）の拠点として、当院の患者に向けた障害者スポーツ等に関する医療的支援や情報提供、各競技団体と連携し参加と継続につながる総合的な支援を行なっている。障害者スポーツ等に携わる職員の経験や情報を集約し、障害者スポーツ等を担う団体とともに普及・啓発を目指すとともに、それら情報を集約し発信していくための拠点構築を目指している。

こうした病院職員の職種を超えた横断的な連携により、下記のような体験会等の運営やイベントでの普及活動を行っている。

イ パラスポーツ体験会の実施

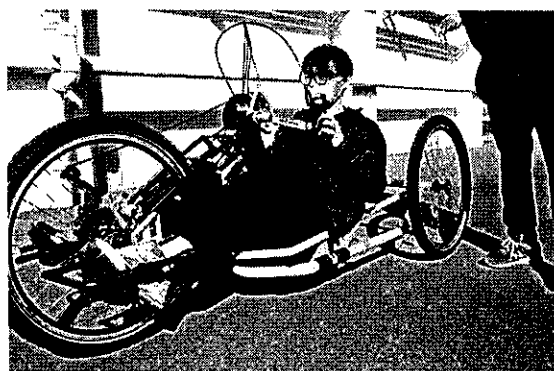
パラスポーツ体験会を障害の有無にかかわらず地域在住の方を対象に3回実施した（表2）。1月には2回目となる「ななさわボッチャ大会」を2部門（チャレンジマッチとかななちゃんマッチ）で開催した。また、ボッチャ大会と並行して福祉機器や福祉車両の展示会もおこない、大会参加者に限らず多くの参加があった。また、令和6年度に引き続き厚木市主催の「厚木市スポーツなじみ DAY」と同時開催の形をとり、荻野運動公園体育館にてパラスポーツのシミュレーターコーナーと用具の展示・体験コーナーを設けた。荻野運動公園体育館の改修工事により限られたスペースでの実施であったが、市のイベントということもあり、地域で生活している障害者やその家族だけでなく、幼児から高齢者まで幅広い年代の方に参加いただいた。こうした活動は、障害者の社会参加の一助となるだけでなく、障害者理解や共生社会の実現の一環となった。

ウ Sport in Life プロジェクトへの参画および優秀賞受賞について

当院は、令和6年度よりスポーツ庁が推進する「Sport in Life プロジェクト」に参画し、パラスポーツ支援を含むスポーツ推進活動を継続して実施している。これらの取り組みは、パラスポーツの普及に加え医療機関としての専門性を活かし、地域住民の健康づくりに寄与することを目的とし展開してきたものである。その成果が高く評価され、第5回 Sport in Life アワードにおいて団体部門 優秀賞を受賞するに至った。

表2 パラスポーツ体験会開催状況

日時	種目	参加者数	開催場所
令和7年 8月2日	ゴールボール	24名	神奈川リハビリ テーション病院
令和7年 10月4日	陸上 ※雨天中止	—	荻野運動公園 陸上競技場
令和8年 1月31日	ななさわボッチャ大会 かなりはフェスティバル (パラスポーツ体験会、 福祉機器展示会) 同時開 催	ボッチャ大会参加 者数: 22 チーム 81 名 フェスティバル参 加者数: 56 名	神奈川リハビリ テーション病院
令和8年 3月14日	パラスポーツのシミュレ ーターコーナーと用具の 展示・体験コーナー (厚木市スポーツなじみ デイ同時開催)	93名	荻野運動公園 体育館



ハンドサイクルの体験



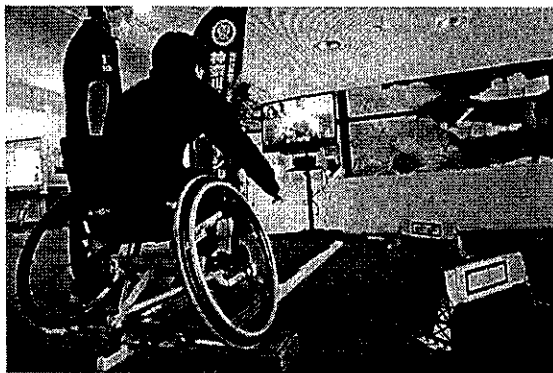
スラローム体験



福祉車両の展示



ボッチャ大会の様子



レーザーを用いたシミュレーター



パラスポーツ用具の展示・体験コーナー

(6) 市民向け公開講座

一般市民向けに「前立腺肥大症の治療」をテーマに専門医による講演を行い、手術を含む最新の治療法を紹介した。(開催日：令和7年7月13日)

(7) 専門職向けセミナーの開催

ア 「股関節症の治療とリハビリテーション～歩行再建に向けた運動療法の実際～」

股関節疾患の治療に携わる医療専門職を対象に最新の外科的治療の紹介や運動療法の実際について、整形外科医や理学療法士から講義や実技を通じて、知識・手技・考え方を学べる研修会として開催した。(開催日：令和7年11月9日)

イ 「Pathleader の臨床活用と実践」

末梢神経磁気刺激装置 Pathleader を用いた症例紹介、OT、PT、STによる実演、機器を使った四肢や嚥下筋への体験を通じて、末梢神経磁気刺激装置の活用法や知識を深める研修会を開催した。(開催日：令和7年8月24日)

ウ 「“歩く”を支える看護を学ぼう」

「歩く」をテーマにそれぞれの領域のエキスパートナースが医療職・介護職向け講演を行った。(開催日：令和7年7月26日)

- ・サルコペニア、ロコモティブシンドロームの概念と「歩く」を考える (学会認定運動器看護師)
- ・「糖尿病と歩く」 (日本糖尿病療養指導士・リウマチケア看護師)
- ・「足を見る - 足を守るための観察 -」(皮膚・排泄ケア特定認定看護師)

4 地域リハビリテーション支援センター事業

地域リハビリテーション支援センターでは、地域における障害者・高齢者等へ適切なリハビリテーションサービスを円滑に提供するための人材育成・情報提供・関係機関との連携推進に関する業務を地域支援室と高次脳機能障害支援室で行っている。

地域支援室では、事業団事業と県委託事業である「神奈川県リハビリテーション支援センター」事業を行っている。事業団事業はリハビリテーション専門研修等を行っている。県委託事業はリハビリテーション従事者等に向けた相談対応・情報提供、研修等を行っている。

高次脳機能障害支援室では、県委託事業である「高次脳機能障害支援普及事業」の神奈川県内の支援拠点機関として、支援コーディネーターと心理判定員が配置されており、高次脳機能障害者への相談支援、普及啓発活動、研修事業等を行っている。

(1) リハビリテーション専門研修（指定管理事業）

医療・保健・福祉・介護専門職を対象とした研修で、令和7年度は12コースの研修を全て対面形式で実施した。引き続き感染マニュアルに基づく新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を行った。研修終了後、受講生からの感染報告はなかった。延受講者数は、外部受講者336名、事業団職員51名で総受講者延数は387名であった。研修アンケートでの4段階評価は、平均3.9であった。

表1 研修内容と受講者数、評価点等

NO.	研 修 名	受講 方法	開催日		定員	総受講 者延数	評価 /4
1	セラピストのためのハンドリング入門	対面	5月10日	土	30人	41名	3.9
2	ポジショニング入門	対面	6月5日	木	30人	36名	4.0
3	(新) ノーリフティングケア入門	対面	6月6日	金	30人	29名	4.0
4	神経難病の「人」と関わるコミュニケーション支援	対面	6月21日	土	20人	32名	3.9
5	知的障がいのある方への支援	対面	7月5日	土	20人	42名	3.8
6	地域生活における装具支援	対面	7月19日	土	20人	27名	4.0
7	車いすシーティング	対面	9月6日	土	30人	31名	3.9
8	ADL 支援の知識と実践	対面	9月27日	水	20人	31名	3.9
9	視覚障がいのある方への支援	対面	10月4日	土	20人	9名	3.9
10	からだにやさしい介助入門	対面	10月18日	土	30人	40名	3.9
11	摂食嚥下障がいのある方への支援	対面	11月15日	土	30人	33名	3.9
12	褥瘡予防セミナー	対面	2月14日	土	30人	37名	3.9
合 計					320名	387名	3.9

(2) 地域リハビリテーション支援関連活動（指定管理事業）

ア 政令市のリハセンターとの連絡会 「かながわ地域リハビリテーション支援連絡会」

平成24年度より情報交換等を目的に、県内政令市（横浜市・川崎市・相模原市）のリハセンター・リハ施設と開催している。令和7年度は、オンラインにて2回開催した。

- ① 開催日：令和7年7月30日
 テーマ：「各施設の主な業務 part1」
 神奈川県リハビリテーション支援センター
 横浜市総合リハビリテーションセンター
- ② 開催日：令和7年10月31日
 テーマ：「各施設の主な業務 part2」
 川崎市地域リハビリテーション支援センター
 れいんぼう川崎
 相模原更生相談所

イ 地域医療介護連携会議等への参加

「自立支援協議会」（県、保健福祉圏域、市町村）

・神奈川県障害者自立支援協議会	2回
・湘南東部障害保健福祉圏域自立支援協議会	3回
・湘南西部障害保健福祉圏域自立支援協議会	2回
・県西障害保健福祉圏域自立支援協議会	2回
・県央障害保健福祉圏域自立支援協議会	2回
・横須賀・三浦障害福祉圏域自立支援協議会	1回
・清川村障がい者協議会	1回

ウ 保健福祉事務所への難病患者支援研修等の協力

保健福祉事務所6か所および保健所1か所の難病患者支援事業に協力した。

①厚木保健福祉事務所大和センター

実施日：令和7年5月21日・8月20日・11月19日・令和8年2月18日

依頼事業名：「難病患者向け訪問リハビリ相談への相談員派遣」

②平塚保健福祉事務所秦野センター

実施日：令和7年8月28日

依頼事業名：「難病リハビリ教室講師依頼」

③小田原保健福祉事務所足柄上センター

実施日：令和7年12月10日

依頼事業名：「難病リハビリ教室講師派遣」

④小田原保健福祉事務所

実施日：令和7年5月27日・11月27日

依頼事業名：「難病リハビリ教室講師派遣」

⑤横須賀市保健所

実施日：令和7年10月24日・11月7日・11月28日

依頼事業名：「パーキンソン病のリハビリ教室講師派遣」

：「難病支援者向け研修会」

⑥厚木市保健福祉事務所

実施日：令和7年12月17日

依頼事業名：「難病リハビリ教室講師派遣」

⑦鎌倉保健福祉事務所

実施日 : 令和7年9月19日・令和8年3月6日

依頼事業名:「難病リハビリ教室講師派遣」

エ 支援学校の福祉用具体験会の企画・運営

①日時 : 令和7年7月25日

場所 : 神奈川県立小田原支援学校

参加者:約50名

②日時 : 令和7年8月5日

場所 : 神奈川県立平塚支援学校

参加者:約100名

オ 全国地域リハビリテーション事業連絡協議会

都道府県リハビリテーション支援センター会議（オンライン）

令和8年3月5日 「各都道府県地域リハビリテーション支援センター活動報告」

(3) 神奈川県リハビリテーション支援センター事業(県委託事業)

ア リハビリテーションの相談対応・情報提供

(ア) リハビリテーション専門相談

令和7年度の相談件数は185件（前年度160件）で昨年度に比べやや増加した。新規相談件数は109件（前年度104件）であった。訪問件数は延べ32件（前年度32件）であった。令和7年度の傾向として、引き続き神経・筋疾患に関する相談と県央圏域からの相談件数が多かった。

表2 障害別の相談件数

区分	件数	構成比
神経・筋疾患	50(45)	27.0%
視覚障害	45(37)	24.3%
知的障害	20(17)	10.8%
脳血管障害	20(16)	10.8%
脳性麻痺	17(15)	9.1%
脊髄障害	10(7)	5.4%
後天性脳損傷(除CVA)	5(7)	2.7%
骨関節疾患	5(1)	2.7%
不明	6(5)	3.2%
その他	7(10)	3.7%
合計	185(160)	100%

表3 相談依頼元の相談件数

区分	件数	構成比
本人家族	48(44)	26.0%
障害者相談事業所	30(14)	16.2%
訪問看護事業所	26(14)	14.1%
障害者施設	25(25)	13.6%
居宅介護支援事業所	14(10)	7.6%
保健福祉事務所	11(18)	6.0%
医療機関	10(10)	5.4%
地域包括	6(9)	3.2%
市町村	4(1)	2.1%
高齢者施設	3(9)	1.6%
教育機関	1(0)	0.5%
障害者更生相談所	0(0)	0.0%
訪問介護事業所	0(0)	0.0%
その他	7(6)	3.7%
合計	185(160)	100%

※ 表2～表9の（ ）の数字は令和6年度実績

表 4 保健福祉圏域別相談件数

区分	件数	構成比
県央	80(57)	43.2%
横浜市	28(16)	15.1%
湘南西部	21(24)	11.3%
湘南東部	16(25)	8.6%
県西	13(8)	7.0%
横須賀・三浦	13(20)	7.0%
川崎市	6(2)	3.2%
相模原市	5(4)	2.7%
県外	3(4)	1.6%
合計	185(160)	100%

表 5 目的別訪問・来所相談件数

区分	件数	構成比
支援内容検討	7(6)	21.8%
補装具・福祉用具機器	6(9)	18.7%
コミュニケーション支援	6(7)	18.7%
環境整備	5(1)	15.6%
介護指導	5(4)	15.6%
訓練プログラム	3(4)	9.3%
医療	0(1)	0.0%
ADL 指導	0(0)	0.0%
その他	0(0)	0.0%
合計	32(32)	100%

(イ) 視覚障害に関する相談について（スマートサイト）

本相談は、神奈川県眼科医会との協力のもと、視覚障害およびロービジョンに関する専門相談として実施している。県内の各眼科医療機関にリーフレットを配布し、当事者や家族からの電話相談を受け付けている。相談では、見えにくさによる日常生活上の困りごとへの助言をはじめ、身体障害者手帳の申請、視覚リハビリテーション（視覚訓練）、利用可能な社会資源や制度の活用方法などについて情報提供を行っている。

相談方法としては、地域リハビリテーション支援センターで電話相談を受け付けた後、必要に応じて神奈川リハビリテーション病院眼科および七沢自立支援ホーム視覚部門と情報を共有しながら回答している。また、状況に応じて神奈川リハビリテーション病院の眼科外来受診につなげる場合もある。

令和 7 年度の相談件数は、新規相談 29 件、延べ相談 39 件であった（前年度は新規相談 32 件、延べ相談 37 件）。スマートサイトを通じた主な相談内容としては、見えにくさによる日常生活のしづらさに関する相談や視覚訓練を希望する相談がみられた。また、眼科医からスマートサイトのような相談窓口があることを紹介され、具体的な困りごとはないものの情報収集を目的として連絡をいただくケースもあり、相談内容は幅広いものとなっていた。

(ウ) 情報提供

ホームページ上で県内のリハビリテーション関係機関の情報、リハビリテーション専門研修の開催案内及び募集や、当支援センターで行っている高次脳機能障害支援事業の紹介、広報誌「地域リハビリテーション支援センターだより」を含めたリハビリテーションに関わる情報を掲載し発信している。ホームページへのアクセス数は、45190 件（前年度 44788 件）で、閲覧数はやや減少傾向であった。

「地域リハビリテーション支援センターだより」は、A 3 版両面で、地域連携構築推進事業等の研修案内や報告、専門相談の事例紹介、学会等への参加情報などを掲載している。今年度は県内約 240 機関へ年 4 回配布した。だよりは、2009 年 5 月に創刊し、約 15 年間地域へ支援センターの事業報告及び今後の活動について情報提供を続けている。配布先は、最新の情報に即して毎年追加変更しており、今後もリハビリテーション情報提供の視点から継続していく。

イ リハビリテーション従事者等を対象とした研修

地域リハビリテーション連携構築推進事業を県内2か所で2回行った。場所は、足柄上地区と大磯・二宮地区で、対面で実施した。

(ア) 足柄上地区の研修

実施テーマ 1回目：足柄上地区の医療と介護の連携を本音と本気で考える

2回目：介助研修～基本的な身体の使い方～

会場 1回目：南足柄市女性センター

2回目：大井町生涯学習センター

実施日 1回目：令和8年1月27日（火）

「足柄上地区の住民の暮らしを支えるために必要なこと
～本音で語り、本気で語る地域連携とチームケア～」

2回目：令和8年2月16日（月）

介助研修「基本的な身体の使い方」

参加人数：延べ45名（1回目23名 2回目21名）

事後アンケート：第1部4.0（4点満点） 第2部3.88（4点満点）

(イ) 大磯・二宮地区の研修

実施テーマ 「認知機能低下への対応」

会場 1部：二宮町民センター

2部：大磯町保健センター

実施日 第1部令和8年2月17日（火）

「認知機能低下への地域での対応」

第2部令和8年2月27日（金）

「認知機能低下への現場での関わり方」

参加人数：延べ62名（第1部34名 第2部28名）

事後アンケート：第1部3.67（4点満点） 第2部3.88（4点満点）

(4) 高次脳機能障害支援普及事業（県委託事業）

ア 相談支援事業

(ア) 個別相談

新規相談件数は、昨年引き続きやや減少傾向であった。依頼元では、昨年増加した「医療機関」の割合が減少し、「本人・家族」からの相談は引き続き多かった。障害別では、昨年と同様「脳卒中」の割合が高くなっている。相談内容については、「生活課題への対応」が多いことは従来通りであるが、「就労・教育等」に関する相談が増加している。圏域別対応件数では、政令市からの件数が減少したが、その他の圏域には大きな変化はなかった。

表6 新規相談依頼元の相談件数

区分	件数	構成比
本人・家族	71(63)	39.7%
医療機関（外来含む）	56(82)	31.3%
地域相談窓口	28(26)	15.6%
介護保険関係機関	9(10)	5.0%
障害者施設	4(5)	2.2%
市町村	4(1)	2.2%
家族会	1(3)	0.6%
その他	6(4)	3.4%
合計	179(194)	100%

表7 新規障害別の相談件数

区分	件数	構成比
脳卒中	93(89)	52.0%
成人外傷性脳損傷	50(65)	27.9%
小児脳損傷	6(7)	3.4%
神経難病	0(2)	0.0%
脊損・頸損	0(0)	0.0%
骨・関節疾患	0(0)	0.0%
不明	2(5)	1.1%
その他(低酸素脳症等)	28(26)	15.6%
合計	179(194)	100%

表8 相談内容別の相談件数（重複）

区分	件数	構成比
生活課題への対応	1,282(1155)	30.7%
就労・教育等	766(608)	18.4%
経済・制度利用	717(679)	17.2%
福祉サービス・社会資源	460(468)	11.0%
リハ訓練（通プロ含）	412(431)	9.9%
家族支援	344(346)	8.2%
医療	153(158)	3.7%
医療機関紹介	17(20)	0.4%
補装具	14(1)	0.3%
福祉機器・用具	8(7)	0.2%
看護・介護方法	0(0)	0.0%
住宅改修	0(0)	0.0%
その他	0(0)	0.0%
合計	4,173(3,873)	100%

表9 相談に対する保健福祉圏域別の件

区分	件数	構成比
県央	96(86)	23.9%
湘南東部	71(62)	17.7%
湘南西部	53(67)	13.1%
横浜	39(50)	9.7%
相模原	38(44)	9.5%
横三	36(35)	9.0%
県外	26(33)	6.5%
県西	25(26)	6.2%
川崎	14(18)	3.5%
不明	4(5)	0.0%
合計	402(426)	100%

(イ) 巡回相談事業

巡回相談（当事者家族会）は7か所、延べ45回実施した（延べ参加者は当事者142名、家族182名、専門相談10件）。毎回参加していただく方に加えて新たに参加される方もおり、当事者・家族

同士のピアカウンセリング、身近な地域での相談場所としての認識が広がっていると考えた。また、当事者・家族会に合わせて専門相談を実施し、地域の支援者にも同席をしていただくことで、高次脳機能障害者支援のポイントや社会資源の情報共有に繋がり、身近な地域で相談を受けられる体制作りの一助となっていると思われた。

また、昨年度に引き続き、鎌倉市の地域包括支援センター、二宮町の小規模多機能型居宅介護の介護保険関係の事業所で開催し、今年度は鎌倉市基幹相談支援センターとの共催で当事者家族交流会を新たに2回開催した。

- ① 藤沢（チャレンジⅡ）：当事者会（第1水曜日）と家族会（第3水曜日）
 当事者会 10回（当事者 110名 支援者 42名）
 家族会 12回（家族 72名 支援者 50名）
- ② 小田原（おだわら障がい者総合相談センター）：第1金曜日
 7回（当事者 7名、家族 31名、支援者 15名）内専門相談 2件
- ③ 大和（大和市障害者自立支援センター）：第2水曜日
 10回（当事者 4名、家族 54名、支援者 21名）内専門相談 2件
- ④ NPO 法人脳外傷友の会ナナ会 就労を考える会（スペースナナ）：年2回日曜日
 2回（当事者 16名、支援者 5名）
- ⑤ 鎌倉（ケアラズカフェ@お庭 鎌倉市当事者家族会）
 3回（当事者 5名 家族 26名 支援者 22名）
- ⑥ 二宮（いつでもどうぞ）
 1回（家族 1名 支援者 5名）

イ 普及・啓発事業

（ア）障害保健福祉圏域自立支援協議会

専門的な相談支援、関係機関との地域支援ネットワークの構築を担うため、県下圏域の自立支援協議会に参画している。地域の支援機関と連携をしながら高次脳機能障害者の個別の相談やサービス利用へのコーディネートをはかるとともに、行政への福祉計画への参画といった側面もあり重要と位置づけている。各年2回程度開催されている。

表 10 県・障害福祉圏域自立支援協議会

日 時	場 所	内 容
7/1	横須賀三浦（横須賀市総合福祉会館）	圏域ネットワーク形成事業の実施報告 各市町村自立支援協議会の実施状況 地域課題の報告及び意見交換等
7/10	湘南西部（平塚市青少年会館）	
7/31	県央（オンライン）	
8/6	県西（小田原合同庁舎）	
8/18	湘南東部（アイクロス湘南）	
R8/1/14	湘南東部（アイクロス湘南）	
R8/2/2	横須賀三浦（ヴェルクよこすか）	
R8/2/4	県西（足柄上合同庁舎）	
R8/2/5	県央（オンライン）	
R8/2/18	湘南西部（秦野市保健福祉センター）	
R8/3/10	湘南東部（アイクロス湘南）	

(イ) 神奈川県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会

高次脳機能障害の支援拠点機関として県の委託を受け、拠点機関としての役割や事業の進め方などを検討する会議であり、年1回開催している。委員は、当事者団体や学識経験者、専門支援機関、職域団体、行政等によって構成されている。令和7年度は令和8年2月20日（金）に横浜開港記念会館にて開催した。

<議題>

- ① 神奈川県の高次脳機能障害者支援の取り組み状況について
 - ・ 神奈川県の取り組みについて……神奈川県障害福祉課
 - ・ 支援拠点機関の取り組みについて……神奈川県総合リハビリテーションセンター
- ② 政令指定都市等における高次脳機能障害者の支援状況について
 - ・ 横浜市の取り組みと動向……横浜市総合リハビリテーションセンター
 - ・ 川崎市の取り組みと動向……高次脳機能障害地域活動支援センター
 - ・ 相模原市の取り組みと動向……相模原市高齢・障害者福祉課
 - ・ 当事者団体の取り組みについて……NPO 法人高次脳機能障害友の会ナナ
- ③ 意見交換

(ウ) 政令指定都市（横浜・川崎・相模原）との連携

高次脳機能障害支援普及事業は全県域を対象としてはいるが、横浜市、川崎市、相模原市の政令指定都市は独自の高次脳機能障害支援事業を展開している。それぞれのリハビリテーションセンター等が核となり、相談、生活訓練、就労支援などの実績を積んできたが、県内での高次脳機能障害者への支援の流れに漏れのないように、また地域情報や資源の開拓などを共有しながら相談のシステム化を図っていくために、平成20年度より県・横浜・川崎の核となる機関との高次脳機能障害支援機関連絡会議を年2回実施している（平成25年度までは年3回の開催）。なお、平成22年度より政令指定都市となった相模原市障害政策課が加わり、令和2年度より相模原市高齢・障害者福祉課が出席している。

表 11 高次脳機能障害支援機関連絡会議

開催日	開催場所	参加機関と職種
6/24 (金)	相模原市南保険福祉センター	・ 横浜市総合リハセンター（コーディネーター） ・ 横浜市障害自立支援課 ・ 川崎市北部リハセンター（SW） ・ 川崎市中部リハセンター（SW、心理、行政）
12/12 (金)	ユニコムプラザさがみはら	・ 川崎市南部リハセンター（SW、行政） ・ れいんぼう川崎（SW） ・ 高次脳機能障害地域活動支援センター（SW） ・ 相模原市高齢・障害者福祉課 ・ かわせみ会（相談員） ・ 神奈川県総合リハセンター（コーディネーター） ・ 神奈川県障害福祉課

(エ) 家族会との連携

地域内研修の共催および協力では、ナナの会と連携し、県内の各地域で高次脳機能障害支援関連の講習会を開催している。令和7年度において、ナナの会が主催して、地域リハビリテーション支援センターが協力を行った講習会を2回開催した。12月20日は大和市で参加者17名、令和8年1月17日は横浜情文ホールで参加者は123名だった。

ウ 研修事業

研修会の開催

高次脳機能障がいへの普及啓発を目的としたセミナーを年4回実施した。全て対面にて実施した。

表 12 高次脳機能障がいセミナーの受講者数等

No	研修名	開催日		定員	受講者数	開催場所	評価 /4
1	高次脳機能障がいセミナー 小児編	7/26	土	30 人	40 名	神奈川工科大 IT	3.9
2	高次脳機能障がいセミナー 理解編	8/23	土	100 人	89 名	県総合医療会館	3.9
3	高次脳機能障がいセミナー 実務編	12/13	土	50 人	63 名	神奈川工科大 IT	3.8
4	高次脳機能障がいセミナー 就労支援編	R8/1/24	土	30 人	40 名	神奈川工科大 IT	3.9
				210 人	232 名		3.8

エ. ネットワーク育成事業

(ア) 高次脳機能障害支援ネットワーク連絡会

県内の各機関が実践している支援や相談等に関する情報を交換・共有することで、各機関の連携強化やネットワーク化を図り、県内の高次脳機能障害支援技術の向上に寄与することを目的として県内事業所が参加し年2回開催した。

- ・第1回 令和7年7月23日(金) 15時～17時 オンライン開催
- ・第2回 令和8年1月16日(金) 15時～17時 オンライン開催

(イ) 事例検討会

令和7年度は5回の開催となった。

- ① 令和7年7月31日相模原市事例検討会：16名
- ② 令和7年8月5日鎌倉市事例検討会：6名
- ③ 令和7年9月17日藤沢市事例検討会：15名
- ④ 令和8年2月17日相模原市事例検討会：15名
- ⑤ 令和8年2月18日藤沢市事例検討会：20名

(ウ) 県内研修会への講師派遣

- ①令和7年5月8日 身体障害者及び知的障害者福祉担当職員研修
- ②令和7年7月17日 秦野市障害者基幹相談支援センター主催研修会
- ③令和7年8月27日 湘南東部圏域障害者就労支援に関する連絡会議
- ④令和7年11月20日 貴峯荘湘南の丘研修会

- ⑤令和7年11月28日 ユーススタイルケア神奈川研修
- ⑥令和7年12月11日 チャレンジ雇用課マネージャー研修
(神奈川県教育委員会サポートオフィス)
- ⑦令和8年1月28日 障害者支援センターぽけっと所内研修
- ⑧令和8年2月3日 相模原市福祉研修事業
- ⑨令和8年2月24日 鎌倉ケアマネ連絡会研修
- ⑩令和8年3月24日 大野中地域包括支援センター個別事例部会

オ 国との連携

(ア) 全国高次脳機能障害相談支援コーディネーター会議

支援コーディネーターの知識、制度利用について等、職務の向上と支援施策の均てん化を図るため、平成21年度より支援コーディネーター会議が開催されている。

- ① 令和7年7月2日 開催方法：オンライン
- ② 令和8年2月13日 開催方法：オンライン

(イ) 関東甲信越ブロック・東京ブロック合同会議

東京、茨城、埼玉、千葉、神奈川、長野、栃木、群馬、新潟、山梨の10都県の支援拠点機関および各県の主管課等が参加した。各都県の事業実施状況等を情報交換するとともに地域支援ネットワークの構築に必要な協議を行った。

令和7年11月27日 開催方法：オンライン

カ 高次脳機能障害支援養成研修

「高次脳機能障害支援養成研修実施要綱」(令和6年2月19日付厚生労働省障障発0219号・障精発0219号第1号)に基づき実施するものであり、令和6年度障害福祉サービス等報酬改定において新設された「高次脳機能障害支援体制加算」及び「高次脳機能障害者支援体制加算」の算定要件となる研修。神奈川県では、年2回(各回定員30名)、基礎研修、実践研修を講義760分(e・ラーニング)、演習720分(対面)の形で今年度から開催した。A日程令和7年9月30日と10月1日、B日程令和8年1月31日と2月1日にそれぞれ演習を行い、障害福祉サービス事業所52名、地域活動支援センター3名、医療機関1名の合計56名が受講され、修了証の交付は、受講生55名、講師・ファシリテーター10名の合計65名となった。アンケート結果から、46名が加算対象の事業所だった。なお、講師やファシリテーターについては、政令市の各支援機関に協力いただいた。

5 厚木看護専門学校事業

昭和 43 年 4 月に厚木准看護婦学校として開校以来、令和 8 年 5 月で 58 年が経過した。「共に生きる社会」の発展に貢献する神奈川県総合リハビリテーション事業団の基本理念に基づき、神奈川県県央地域の保健・医療・福祉に貢献できる看護師の育成を使命とし、開校以来 4,640 人の卒業生を送り出している。この使命を果たすため、以下の理念に基づいた教育を目指している。

- 学生一人一人の持つ可能性を引き出し、専門職業人として信頼される高い倫理観、自律性を育てる
- 人間と健康に対する理解を深め、自ら考え、看護を探究できる看護の実践者を育成する
- 時代の先見性をもって柔軟に多職種と協働できる専門職業人を育成する

令和 7 年度は、看護学科（第 44 回生）88 人が入学した。同年度 3 月には、医療専門課程である看護学科（第 42 回生）69 人が卒業し、「専門士（医療専門課程）」の称号を付与した。また、同年度 2 月に実施された看護師国家試験に 66 人が合格した。

なお、令和 7 年度卒業生の就職及び進学状況は、県内医療機関への就職 66 人、助産師課程進学 0 人の計 66 人である。

令和 8 年度入学生の応募者状況は定員 80 人のところ 101 人、受験者状況は 97 人であった。受験倍率は 1.2 倍となっている。令和 8 年 4 月には、看護学科（第 45 回生）77 人が入学した。

(1) 在籍者の状況（令和 8 年 3 月 31 日現在）

（単位 人）

区 分		年 度 当 初 在 籍 者 数	年 度 内 の 移 動		年 度 末 在 籍 者 数
学科	学年（定員）		中途入学者数	中途退学者数	
看護学科	1 年（80）	< 0 > 88	0	8	80（0）
	2 年（80）	< 0 > 80	0	4	76（0）
	3 年（80）	< 0 > 74	0	1	73（0）
	計（240）	< 0 > 242	0	13	229（0）

注 年度当初在籍者数の< >書きは、留年者数で内書きとする。

注 年度末在籍者数の（ ）書きは、年度末退学者数で内書きとする。

(2) 卒業生の就職等の状況 (単位 人)

区 分	卒 業 者 数	就 職 者 数			進 学 者 数	その他
		総数	県内	うち事業団		
			県外	-		
看護学科	69	66	37	29	0	0
			0	-		

(3) 応募者の状況

看護学科 (3年課程・全日制) [募集定員80名]

(単位 人)

区 分	応 募 者 数	受 験 者 数	合 格 者 数	入 学 者 数	応 募 倍 率	受 験 倍 率	合格率 (%)	入学率 (%)	卒 業 者 数	国家試験 合格者数	国家試験 合格率 (%)
45 回 生 (R8年度入学)	101	97	82	77	1.3	1.2	84.5%	93.9%	-	-	-
44 回 生 (R7年度入学)	121	116	94	88	1.5	1.5	81.0%	93.6%	-	-	-
43 回 生 (R6年度入学)	129	119	90	81	1.6	1.5	75.6%	90.0%	-	-	-
42 回 生 (R5年度入学)	154	149	86	79	1.9	1.9	57.7%	91.9%	69	66	95.7%

※応募倍率 = 応募者数 ÷ 募集定員

※受験倍率 = 受験者数 ÷ 募集定員

6 地域の保健・医療・福祉への支援事業

本事業は、センターの持つリハビリテーションの専門機能を地域の関係機関、関係施設等に提供し、センターと各関係機関及び各施設等が相互に連携を図りながら、地域の保健・医療・福祉の向上を目指している。令和7年度は、地域への派遣延人数が500人で、研修事業等への派遣延人数が790人、実習等の受入延人数は6,549人であった。

区 分	事業分類	事業内容	実 績
Ⅰ 地域保健・医療・福祉事業への支援	1 医学的判定・医学的指導への支援	医学的判定支援	厚木市 他2件 延60人
	2 医療・訓練事業への支援	医療・訓練協力	厚木精華園 他1件 延440人
Ⅱ 研修事業等	1 研修事業への協力（外部機関の専門職員研修会に講師派遣）	(1) 医療関係職員研修	公益社団法人神奈川県看護協会 他31件 延190人
		(2) 福祉関係職員研修	社会福祉法人 愛の森学園 他9件 延42人
		(3) 教育関係職員研修	神奈川県立保健福祉大学 他22件 延299人
		(4) 各種相談員・ホームヘルパー・ボランティア等研修	日本高次脳機能障害友の会 他7件 延156人
		(5) 障害者・介護者（家族）研修	交通事故被害者家族ネットワーク 他1件 延3人
		(6) その他	神奈川県障害者職業センター 他2件 延3人

区 分	事業分類	事業内容	実 績
Ⅱ 研修事業等	2 専門職員養成事業等への支援	(1) 学生臨床実習受入	(福祉部門) 洗足子ども短期大学 他 31 校 延 1,280 人 (神奈川リハ病院) 積善会看護専門学校 他 27 校 延 5,078 人
		(2) 福祉施設等職員実習受入	社会福祉法人唐池学園 貴志園 1 件 延 10 人
		(3) 各種人材養成研修派遣	神奈川県 他 28 件 延 36 人
		(4) 非常勤講師派遣	神奈川県立保健福祉大学 他 27 件 延 61 人
		(5) 医療関係者実習受入	独立行政法人国立病院機構横浜医療センター 附属横浜看護専門学校 他 1 件 延 191 人
Ⅲ 障害者福祉行事等への支援	1 障害者スポーツ大会等への支援	身障者スポーツ大会への支援	公益財団法人日本障害者スキー連盟 病院 他 21 件 延 222 人
Ⅳ 各種団体運営等への支援	1 各種団体運営等への支援	(1) 国、県、市町村等の公的機関への支援	厚木市 他 32 件 延 84 人
		(2) 民間団体等への支援	神奈川県知的障害施設団体連合会 25 件 延 28 人
Ⅴ 調査研究事業等への支援	1 調査研究事業等への支援	調査研究事業等への支援	国立障害者リハビリテーションセンター 他 12 件 延 13 人
	2 各種委員会への支援	各種委員会への支援	公益財団法人かながわ福祉サービス振興会 他 25 件 延 30 人

7 職員確保対策事業

令和7年度の職員確保対策については、所属、職種ごとに補充対象を検討し、求人活動を行った。採用者64人の職種別内訳では、看護職員が最も多く24人（37.5％）となっている。

医師の確保については、大学医局との連携強化を模索するとともに、採用が困難な診療科医師を民間の紹介業者を活用し確保活動を行った。また、看護職員の確保については、年間を通して適正な医療サービスの提供ができるよう、退職者の補充に加え出産休暇、育児休業等で勤務に就くことができない職員数を加味し、採用を行った。

今後も採用が困難な医師等の安定的な確保に力を注いでいく。

(1) 職員充足状況

(単位 人)

職 種 別 区 分			総 数	職 種 別 内 訳					
				医 師	看護職員	理学療法士	作業療法士	指導員	その他の 役職員
定 員			647	44	221	51	38	145	148
現 員	正	令和6年度末現在人員	582	30	233	54	34	124	107
		令和7年3月31日退職	(43)	(3)	(20)	(4)	(0)	(11)	(5)
		令和7年度採用	64	11	24	4	7	10	8
		令和7年度退職	15	6	3	2	1	2	1
	規	職種変更	0	0	▲ 1	0	0	0	1
		令和7年度末現在人員	588	32	233	52	40	121	110
		令和8年3月31日退職	(48)	(6)	(14)	(4)	(1)	(15)	(8)
	臨時	令和7年度末現在人員	102	1	2	11	5	25	58
	計		690	33	235	63	45	146	168
過 不 足 数			43	▲ 11	14	12	7	1	20
充 足 率 (%)			106.6	75.0	106.3	123.5	118.4	100.7	113.5

注 令和8年3月31日退職欄の（ ）書きは、令和7年度末現在人員の内書きとする。

(2) 令和7年度 常勤医師の採用数

麻酔科医師	内科医師
0人	0人

(3) 学資金等の貸付事業の状況

区 分	学資金貸付 (厚木看護専門学校)		学資金貸付 (外部養成校)		計	
	人員	金 額	人員	金 額	人員	金 額
看 護 師	70人	58,800千円	1人	600千円	71人	59,400千円

注 看護師に対する学資金等は厚木看護専門学校生は月額70千円、外部養成校学生は月額50千円の貸し付けである。

(4) こども園保育状況

(単位 人)

区 分	3歳未満	3歳以上	合 計
R6年度末在園児数	12人	4人	16人
R7年3月31日 卒園・退園児数	▲ 3人	▲ 1人	▲ 4人
R7年4月1日 クラス編成異動児数	▲ 3人	3人	0人
R7年度入園児数	1人	2人	3人
R7年度退園児数	▲ 1人	0人	▲ 1人
年度末在園児数	6人	8人	14人

注 クラス編成異動児数は、3歳未満から3歳以上に異動した児数をいう。

8 職員福利厚生事業

令和7年度の状況は、次のとおりである。

(1) 職員宿舍入居状況

(令和8年3月31日現在)

区 分	宿舍名	内 容	戸または室数	入居数	入居率 (%)
単身者用宿舍	レオパレス等	ワンルーム	17	16	94.1
世帯者用宿舍	七沢アパート	3DK	48	16	33.3
合 計			65	32	49.2

(2) 健康診断実施状況

種 別	実 施 月	対 象 者 数	受診者数	受診率 (%)	要精検者
一般定期健康診断					
定期健康診断	第1回 7月	749	734	98.0	93
特定業務従事者健康診断	第2回 1月	547	525	96.0	57
雇用時健康診断	雇用時			-	
特別定期健康診断					
有機溶剤等取扱者検診	第1回 7月	4	4	100.0	0
	第2回 1月	4	4	100.0	0
電離放射線業務従事者検診	第1回 7月	18	18	100.0	0
	第2回 1月	17	17	100.0	0
被曝線量測定	年12回		303	-	
臨時健康診断					
B型肝炎予防検診 (抗原、抗体検査)	7月	対象全職種 40	40	100.0	-
	雇用時	中途採用者 0	0	-	-
B型肝炎予防ワクチン接種	第1回 8月	(希望者) 25	25	100.0	-
	第2回 9月	(希望者) 25	24	96.0	-
	第3回 2月	(希望者) 25	23	92.0	-
インフルエンザ予防ワクチン接種	11月	(希望者)	588	-	-
婦人科系検診 (乳・子宮がん検診)	9月、10月	(希望者)	184	-	-
腹部超音波検診	1月	(希望者)	46	-	-
免疫4種抗体検査	4月	対象全職種 55	55	100.0	-
	雇用時	中途採用者 0	0	-	-
人間ドック					
事業団職員	10月～12月	(希望者)	59	-	-
一般衛生管理					
検 便	栄養士年24回		99	-	-

(3) 貸付事業の状況

区 分	人 員	貸 付 額	1 人 平 均
一 般 貸 付	1 人	1,300 千円	1,300 千円
特 別 貸 付	2 人	1,140 千円	570 千円
計	3 人	2,440 千円	813 千円

9 経営計画に基づく取組状況

平成 28 年度からリハセンターの第二期指定管理期間が始まり、当事業団は指定管理者として引き続き選定された。これを契機に、当事業団は、平成 28 年 3 月にこれからの 10 年に向けリハセンターの役割・機能発揮と安定的な事業継続が図れるよう経営計画を策定した。

(1) 福祉施設の取組状況

令和 7 年度の利用実績は、令和 6 年度との比較において、七沢学園児童部門では、短期入所の受入数が若干向上したが、利用者はほぼ変わらず、成人部門では利用者数が減少した。成人部門の減少の理由は、主に生活訓練の利用者減によるものである。療育園は、昨年度同様利用率は高い数値で推移し昨年度より短期入所者とも実績が向上した。自立支援ホームはここ数年、肢体不自由部門、視覚障害部門とも利用者数は低い数字で推移してきており、施設入所支援では昨年度を下回った。

ここ数年、回復期病院や相談支援事業所などへ PR 活動を行うものの、グループホーム等の増加で結果に結びつかない状況が続いている。今後とも利用者確保や地域支援に向けた努力は継続する。

それぞれの施設における利用者支援については、令和 7 年度も、利用者の意思決定支援に力を注いできた。まずは、一年前にスタートした個別支援計画等の会議への利用者参加が定着し、意向を確認する、反映させる取り組みが充実してきた。特に学園や療育園における重度障害者への対応については、言葉だけに頼らず写真や映像を提供して意向を汲み取る等の工夫がなされ、さらに学園においては意思決定支援アドバイザーの定期的な会議参加もあり、意志決定が難しいとされる重度障害者について日常生活における生活経験の拡大の取り組み機会が増した。また、すべての利用者に、地域生活に向けた支援の確認や施設外の日中活動に関する意向の確認をおこなうための準備を実施した。利用者や関係者の意志を確認する作業を通して、地域資源の見学や体験について一緒に考える支援体制を整え、利用者支援の質の向上を目指す取り組みを充実させた。

一方、福祉局の課題の一つである支援員の人材確保に関しては、ここ数年続いているが、今年度も 8 割弱が正規職員で、2 割強が再雇用、臨時、非常勤職員という構成であった。多くの実習生の受入れや就職相談会への積極的な参加をおこなっているものの正規職員の確保が困難で、再雇用、臨時、非常勤職員に支えられて運営をしている状況ある。正規職員を少しでも増やせるよう、引き続き確保活動に尽力していく。

愛着障害、強度行動障害、障害の重度化、障害者の高齢化、病気の再発など各所属とも、利用者への対応が一層困難になってきている。入所支援であるがゆえの特徴とは言えるが、支援員の専門性の向上や多職種連携でこのような最前線における課題を解決し、地域との共有をはかり、障害をもった利用者への支援のレベルアップを図っていきたい。尚、今年度 3 月に、1 年半にわたる神奈川県総合リハビリテーションセンターあり方検討委員会の報告書がまとまったところである。福祉機能の目指す方向性で、リハビリテーション医療の活用、地域生活への支援、人材の確保と研究という 3 つの視点を受け、できるところから改善を始め、「当事者目線」に立った支援と果たす役割を考える努力は続けていく。

(2) 病院の取組状況

病院の利用状況については、一日平均利用率が昨年に比べ2.9%減少した（R 6 : 81.3% → R 7 : 78.4% (▲2.9%)）。平均在院日数（R 6 : 66.6 日 → R 7 : 66.6 日 (±0 日)）に変化は無く、入院実人数が減少したことが影響した。（R 6 : 1,246 人 → R 7 : 1,166 人 (▲80 人)）。患者数の減少は、医師の退職に伴う影響が大きいと考えられる。外来患者数についても昨年度より減少した（R 6 : 47,806 人 → 47,235 人 (▲571 人)）。外来受診重点医療機関になったことも減少の原因のひとつとして考えられる。患者数の減少、平均在院日数の減少は全国的な傾向であり、当院も同様の結果となっている。

利用率の向上に向けた取り組みとしては、医療機関向けの広報活動として、当院の診療内容の周知と知名度の向上を図るため、急性期病院のMSW等を対象とした見学会の実施や、周辺のクリニックに対する訪問による病院説明などを実施した。

さらに、診療材料費、医薬品費、業務委託費等の物件費が高騰し病院経営は厳しい状況となった。診療報酬は、令和6年6月の改定で+0.88%であり、一方で全国消費者物価指数はここ数年3%前後の上昇が続いている。診療報酬は公定価格で物価上昇の価格転嫁はできず、経営努力では解決困難なコストの上昇となった。当院としても、リハスタッフの増員による訓練収入の増など経営努力はしたものの収支は大きく悪化した。

病院機能を維持するために必要となる人材の確保では特に医師、看護師、セラピストの確保に注力した。医師の確保については、大学医局に働きかけ、リハビリテーション科や整形外科では若手医師の採用につながったが、内科、精神科などの診療科では紹介業者の仲介を利用したが、採用には繋がらなかった。

看護師については、就職サイトの活用や説明会、病院見学会などの実施により令和8年度採用の内定者数は確保できた。セラピストについても実習指導の受入れ、見学会の実施などの確保対策により予定通りの採用者を確保することができた。少子化の影響で学生数の減少が急激に進んでおり、いずれの職種についても、引き続き職員確保に尽力する必要がある。

また、県とともに活動している筋電義手の取組では、引き続きこども医療センターや川崎市複合福祉施設との連携によるアウトリーチ支援を行った。また、患児の幼稚園、保育園、学校への訪問を行い、教育現場等との連携もすすめた。

国土交通省の事業であり独立行政法人自動車事故対策機構（ナスバ）が実施主体である「重度脊髄損傷者受入環境整備事業（モデル事業）」は2年目を迎えた。令和7年度は5人の患者を受入れた。

障害者スポーツの普及推進についても昨年度に引き続き定期的の実施し、障害者の社会参加及び共生社会の実現に向け取り組んだ。

■令和7年度事業計画の数値目標と実績

区分		令和7年度 目標①	令和7年度 実績②	差異 ②－①	令和6年度 実績③	差異 ②－③	
七沢学園 児童	家庭復帰率	81.0%	85.7%	4.7%	50.0%	35.7%	
	強度行動障害者 (1日当たり受け入れ人数)	2.0人	1.0人	▲ 1.0人	1.0人	0.0人	
	集中療育 (年間実利用者数)	8.5人	4.0人	▲ 4.5人	2.0人	2.0人	
	1日平均利用者数	29.4人	25.3人	▲ 4.1人	26.0人	▲ 0.7人	
	利用率	98.0%	84.4%	▲ 13.6%	86.6%	▲ 2.2%	
七沢学園 成人	家庭復帰率	61.5%	100.0%	38.5%	75.1%	24.9%	
	医療重度障害者 (1日当たり受け入れ人数)	3.0人	4.0人	1.0人	5.0人	▲ 1.0人	
	強度行動障害者 (1日当たり受け入れ人数)	6.0人	6.0人	0.0人	6.0人	0.0人	
	1日平均利用者数	27.9人	23.1人	▲ 4.8人	26.3人	▲ 3.2人	
	利用率	93.1%	76.9%	▲ 16.2%	87.5%	▲ 10.6%	
七沢学園	満足度	3.2点/4点	3.5点/4点	0.3点	3.6点/4点	▲ 0.1点	
七沢療育園	超・準超重症児 (1日当たり受け入れ人数)	10.0人	14.9人	4.9人	13.1人	1.8人	
	短期入所 (1日当たり受け入れ人数)	2.8人	3.3人	0.5人	2.7人	0.6人	
	満足度	3.7点/4点	3.7点/4点	0.0点	3.9点/4点	▲ 0.2点	
	1日平均利用者数 (短期含む)	39.7人	38.0人	▲ 1.7人	37.2人	0.8人	
	利用率 (短期含む)	99.4%	95.1%	▲ 4.3%	93.1%	2.0%	
七沢 自立支援 ホーム	家庭復帰率	91.0%	89.7%	▲ 1.3%	87.5%	2.2%	
	満足度	3.1点/4点	3.6点/4点	0.5点	3.6点/4点	0.0点	
	1日平均利用者数	47.0人	24.5人	▲ 22.5人	32.2人	▲ 7.7人	
	利用率	94.1%	49.1%	▲ 45.0%	64.5%	▲ 15.4%	
神奈川 リハビリ テーション 病院	家庭復帰率	81.0%	84.1%	3.1%	87.7%	▲ 3.6%	
	年間手術件数	400件	411件	11件	424件	▲ 13件	
	紹介率	50%以上	53.9%	3.9%	2,041件	-	
	逆紹介率	40%以上	60.8%	20.8%	1,974件	-	
	入院患者満足度	3.5点	3.7点	0.2点	3.7点	0.0点	
	外来患者満足度		3.7点	0.2点	3.6点	0.1点	
	入院患者利用率	90.0%	78.4%	▲ 11.6%	81.3%	▲ 2.9%	
	一日平均入院患者数	252.0人	219.6人	▲ 32.4人	227.6人	▲ 8.0人	
	外来1日平均利用数	300.0人	195.2人	▲ 104.8人	196.7人	▲ 1.5人	
	後発医薬品品目採用率	40.0%	39.8%	▲ 0.2%	39.7%	0.1%	
	入院申込みの承認率	90.0%	94.0%	4.0%	95.4%	▲ 1.4%	
	入院申込みから決定連絡までの日数	7.0日以内	10.4日	3.4日	9.1日	1.3日	
	常勤医師の 採用	麻酔科医師	1人	0人	▲ 1人	0人	0.0人
		歯科医師	1人	0人	▲ 1人	0人	0.0人
	1患者当りの訓 練実施件数 (単位)	回復期病棟	6.0単位	5.6単位	▲ 0.4単位	4.6単位	1.1単位
一般病棟		4.0単位	3.3単位	▲ 0.7単位	2.9単位	0.4単位	
厚木看護 専門学校	国家試験合格率	100.0%	95.7%	▲ 4.3%	93.8%	1.9%	
	県内就職率	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	

注 神奈川リハビリテーション病院の紹介率及び逆紹介率は、令和6年度は件数の目標・実績であったため、年度比較の差異は表記していない。

事業報告の附属明細書

令和7年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。

社会福祉法人

神奈川県総合リハビリテーション事業団

